

平成 2 3 年度第 6 回定例会

八王子市教育委員会会議録

日	時	平成 2 3 年 7 月 2 7 日 (水)	午前 9 時
場	所	教育センター	3 階 大会議室

第 6 回定例会議事日程

1 日 時 平成 2 3 年 7 月 2 7 日 (水) 午前 9 時

2 場 所 教育センター 3 階 大会議室

3 会議に付すべき事件

第 1 6 号議案 議決事項の一部取り消し (平成 2 3 年 6 月 1 5 日議決第 1 0 号議案) に関する事務処理の報告について

4 協議事項

平成 2 4 年度八王子市立中学校使用教科用図書の採択について

5 報告事項

新体育館の事業者募集の開始について (口頭) (スポーツ振興課)

八王子市教育委員会

出席委員 (5 名)

委 員 長	(1 番)	小田原 榮
委 員	(2 番)	和 田 孝
委 員	(3 番)	川 上 剋 美
委 員	(4 番)	水 崎 知 代
教 育 長	(5 番)	石 川 和 昭

教育委員会事務局

教 育 長 (再 掲)	石 川 和 昭
学 校 教 育 部 長	坂 倉 仁
学 校 教 育 部 指 導 担 当 部 長	佐 島 規
教 育 総 務 課 長	穴 井 由 美 子

学校教育部主幹 (企画調整担当)	平塚裕之
施設整備課長	矢光克彦
学事課長	海野千細
学校教育部主幹 (保健給食担当)	山野井寛之
指導課長	廣瀬和宏
指導課統括指導主事 (特別支援教育・ 教育センター担当)	藏重佳治
指導課統括指導主事 (企画調整担当)	所夏目
指導課統括指導主事 (教育施策担当)	山下久也
指導課前任指導主事	木下雅雄
生涯学習スポーツ部長	榎本茂保
生涯学習スポーツ部参事 (図書館担当)	望月正人
生涯学習総務課長	宮木高一
スポーツ振興課長	小山等
生涯学習スポーツ部主幹 (スポーツ施設担当)	遠藤幸保
国体推進室主幹	富貴澤繁幸
国体推進室主幹	高橋利光
学習支援課長	小松正照
文化財課長	田島巨樹
生涯学習スポーツ部主幹 (図書館担当)	田中明美
生涯学習スポーツ部主幹 (図書館担当)	玉木伸彦
生涯学習スポーツ部主幹 (こども科学館担当)	齋藤和仁
スポーツ振興課主査	橋本徹
八王子市立中学校使用教科用図書選定資料作成委員会	
教科別調査部会 「国語(国語・書写)」部長	枝村晶子

教科別調査部会 「国語(国語・書写)」副部長	門馬弘
教科別調査部会 「社会(地理的分野・地図)」部長	今井啓之
教科別調査部会 「社会(地理的分野・地図)」副部長	川口浩
教科別調査部会 「社会(歴史的分野)」部長	渡辺一彦
教科別調査部会 「社会(歴史的分野)」副部長	石上晶弘
教科別調査部会 「社会(公民的分野)」部長	市村扶二夫
教科別調査部会 「社会(公民的分野)」副部長	井上俊夫

事務局職員出席者

教育総務課主査	遠藤徹也
教育総務課主任	久保陽子
教育総務課主任	最上和人

【午前9時00分開会】

小田原委員長 本日の委員の出席は5名全員でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成23年度第6回定例会を開会いたします。

電力不足が心配されている中、本市では常時15%の電力削減に取り組んでいるところでございます。空調温度を高め設定しているために、出席者は軽装をさせていただいております。また、照明は一部消灯とさせていただいております。窓際の方は若干明るいのですが、壁際の方は相当暗いと思っておりますけれども、御不便をおかけしますがご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

小田原委員長 それでは日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は、3番、川上剋美委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

なお、議事日程中、第16号議案につきましては、審議内容が個人情報に及ぶため「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条第6項及び第7項の規定により、非公開といたしたいと思っておりますけれども、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 御異議ないものと認めます。

また、本日の議事日程中、協議事項「平成24年度八王子市立中学校使用教科用図書の採択について」と、報告事項「新体育館の事業者募集の開始について」は、議事進行の都合上、事務局と調整いたしました結果、八王子市教育委員会会議規則第9条の規定に基づき、議事日程を変更し、まずはじめに報告事項を行い、続いて協議事項の順といたしたいと思っておりますけれども、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 これも御異議ないものと認めます。

小田原委員長 それでは、ただいまお諮りいたしましたことに基づきまして、報告事項となります。スポーツ振興課から御報告願います。

小山スポーツ振興課長 仮称八王子市体育館等整備運営事業の事業者募集について、御報告をいたします。詳細については、橋本課長補佐から報告いたします。

橋本スポーツ振興課主査　それでは、新体育館の事業者の募集につきまして、御報告申し上げます。

新体育館事業につきましては、PFI手法で整備することとして、昨年の9月に実施方針を公表、ことしの2月に特定事業の選定、公表という手続を踏んで、事務を進めてまいりました。このほど、募集に係る体制が整いましたので、明後日7月29日に募集要項等を公表して、事業者の募集を開始するということでございます。

募集期間は、およそ3カ月半程度、11月1日に募集を締め切りまして、その後審査委員会による事業者選定を行い、3月議会に契約議案を提出、平成26年7月竣工、平成26年10月オープンという予定で事務作業を進めるつもりでございます。

以上でございます。

小田原委員長　スポーツ振興課の報告は終わりました。

本件につきまして、御質疑ございませんか。よろしいですか。

では、特にないようでございますので、そのように進行していただきたいと思います。よろしく申し上げます。

小田原委員長　それでは、続いて、協議事項「平成24年度八王子市立中学校使用教科用図書の採択について」となりますけれども、準備がございますので、ここで暫時休憩にいたしたいと思います。準備が整いましたら、引き続き再開といたします。よろしく申し上げます。

〔午前9時05分休憩〕

〔午前9時10分再開〕

小田原委員長　それでは、休憩前に引き続き再開いたします。

協議事項「平成24年度八王子市立中学校使用教科用図書の採択について」を議題に供します。

本件について、指導課から御説明願います。

山下指導課統括指導主事　それでは、「平成24年度八王子市立中学校使用教科用図書採択について」協議をお願いいたします。

まずはじめに、今回の採択の趣旨について御説明いたします。前々回、平成17年度の採択では、平成18年度から平成21年度までの4年間使用する教科用図書の採択を行いました。平成24年度からは、新しい学習指導要領に基づく教科用図書を使用する

こととなったため、前回、平成21年度には、平成22、23年度の2年間のみ使用する教科用図書の採択を行いました。このときには新たに文部科学大臣の検定を得たものが社会科・歴史的分野の1社のみだったため、社会科・歴史的分野のみ教科用図書選定検討委員会を設置し、調査・研究を行い、その他の教科、分野については、学校での使用状況等を把握した上で、平成17年度に採択した教科用図書を引き続き採択をしていただきました。

今回は、来年度からの新学習指導要領による新たな教科用図書の採択となりますので、平成23年4月13日決定、平成24年度八王子市立中学校使用教科用図書採択要綱により、教科用図書選定資料作成委員会を設置し、調査・研究を行ってまいりました。

今回、採択を行う教科及び種目は、国語科の国語と書写、社会科の地理的分野、歴史的分野、公民的分野、地図、数学科、理科、音楽科の一般と器楽合奏、美術科、保健体育科、技術・家庭科の技術分野と家庭分野、英語科、以上9教科15種目でございます。それでは、協議をよろしくお願いいたします。

小田原委員長　　ただいま指導課から説明が終わりました。

では、協議を始める前に、協議の方法はどのようにいたしますか。

石川教育長　　協議の方法ですけれども、採択要綱によりますと、採択の方法は、教科用図書選定資料作成委員会の報告を参考にしながら行うということになっておりますので、まずは資料作成委員会の委員からの報告をいただいて、その後、協議するという形で進めさせていただければと思います。

それから、日程的には、協議は本日と次回8月10日の2回にわたります。この二日間で9教科15種目について御協議をいただくこととなります。それぞれの回の協議が終了する際に、事務局にてあらかじめ用意しております用紙に、各委員から無記名で推したい教科用図書を選定していただき、その後8月24日の定例会において各委員の選考状況を確認し、それに基づいて1社に絞り込むというような進め方でいかがでしょうか。なお、絞り込む際に、全員一致、5名の委員が1社を選んだ5票対0票というパターン、それから、1社を4人の方が選び、ほかの社のものをもう一人の方が選んだ、4票対1票という場合、これはもう後の協議は省いてもいいのではないかと思います。問題は、3票対2票に分かれたところについては、その後の協議が必要かと思っておりますけれども、その辺のところをぜひお諮りいただければと思います。よろしくお願いいたします。

小田原委員長　ただいま、教育長から御提案がありましたけれども、ほかに御意見はございませんか。よろしいですか。

それでは、ただいま教育長から御提案いただきましたけれども、ほかには御意見がないようでございますので、ここで確認をしたいと思います。

協議方法につきましては、種目ごとに教科用図書選定資料作成委員会の御報告、説明を受けまして、それに関しまして本日と次回に協議を行い、それぞれの日に予定している種目の協議終了後に各委員の無記名による意見集約を行い、その結果を8月24日の定例会の中で、各委員の選考状況、選考状況は先ほど教育長から御提案がありましたけれども、そのような形の中で協議して、採択を行うようにいたしたいと思います。よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長　御異議ないものと認めます。協議方法につきましては、そのようにいたします。

なお、本日、協議を予定しております種目は、国語科の国語及び書写、社会科の地理的分野と地図、歴史的分野及び公民的分野の6種目でございます。

それでは、事務局から意見集約のための記入用紙を配布願います。この用紙につきましては、各委員の記入後、8月24日まで事務局で保管するというところでよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長　それでは、協議を進めます。

まず、国語科の国語につきまして資料作成委員会から御報告をいただきたいと思えます。

枝村教科別調査部会「国語（国語・書写）」部長　国語科部長をさせていただいております、松が谷中学校校長の枝村でございます。よろしくお願いたします。

門馬教科別調査部会「国語（国語・書写）」副部長　同じく副部長をさせていただいております南大沢中学校校長の門馬でございます。よろしくお願いたします。

枝村教科別調査部会「国語（国語・書写）」部長　それでは、国語について御説明させていただきます。

現在、八王子市で使用している教科書は東京書籍でございます。

はじめに、全社に共通している教科書の内容について説明します。現行の学習指導要領では、国語科の内容の構成は3領域であります。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と、1事項の言語事項でしたが、このたびの学習指導要領の改訂において、1事項である言語事項が、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に改められ、我が国の言語文化である古典の学習が今までより重視されています。また、指導事項が明確になり、生徒にどのような力をつけたいかがより鮮明になりました。生徒にとっても学習過程がはっきりわかり、生徒自身が興味や関心を持ちながら授業の中で学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりすることができるようになっているのが特徴です。

それでは、各社の説明を申し上げます。

はじめに、東京書籍ですが、観点1内容と、観点3表記及び表現は記載どおりです。観点2と4を合わせて御説明いたします。B5判で本編と基礎編、資料編で約300ページです。普通の目次の次に領域別の目次、そして背表紙の裏にも3年間で学ぶ言葉の力項目一覧があります。学習目標とつけたい言葉の力、そして本編と基礎編、資料編との関連があるので、生徒が見通しを持ち学習することができ、言葉の力をつけることができます。観点5(1)の「話すこと・聞くこと」ですが、活動の流れがわかりやすく書いてあるので、授業でそのまま使えます。また、2年生では司会者の役割指導もあり、新学習指導要領に対応しています。観点5(2)読み物教材ですが、古典はイソップ物語の原文、「伊曾保物語」や、能・人形浄瑠璃、歌舞伎のさわりの部分を入れています。また、文学的文章は現代作家のものから近代作家などを取り上げています。本編で、ヘルマン・ヘッセの「少年の日の思い出」を場面の展開や人物の描写に着目して読み、そして資料編でも同じところに着目して、辻仁成の「そこに僕はいた」を合わせて読むというような方法もとしています。説明的文章は、「食の世界遺産鯉節」「白川郷合掌造り」など同じテーマのものを、本編と資料編で読み比べられる方法で掲載されています。(3)の漢字学習について、(4)の読書指導は記載どおりです。

次に、学校図書ですが、観点1と2を合わせて御説明いたします。A5判約400ページで分量が多いです。内容は1学年から3学年まで文語文法が記載されているなど、中学校で学習すべき内容を超えるものがあります。特徴としましては、読解を重視した教科書で、文学的文章、説明的文章ともに習得、活用、探求と発展的な読む教材が豊富です。分量が多いことと、中学校で教える範囲を超えているものがあることが本市の学

力には見合わない部分です。観点3の表記及び表現は、本文の文字が他社と比べると、他社が縦横4ミリの大きさに対して、縦横3.5ミリとやや小さ目です。また、他社と比べると写真や挿絵がやや少な目です。観点4ですが、領域別に学習の見通しができる目次はありません。学習の目標は各単元の扉に小さく書かれています。観点5(1)話すこと・聞くことの教材については、学校図書のみ2本立てで分量がやや少ないです。新学習指導要領では、「話すこと・聞くこと」の内容が、「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の3本立てになりましたけれども、「聞くこと」のみを取り上げた内容が学校図書にはありません。観点5の読み物教材の古典は、現代語とのつながりを意識した古典に関する読み物も多いですが、「宇治拾遺物語」「遠野物語」などやや高度な作品があります。また、文学的文章と説明的文章は記載どおりです。観点5(3)漢字学習については、「漢字を見抜く」では漢字の成り立ちを聞く練習問題などの量が多いです。(4)読書指導は、読書の単元があり、読書教材はありますが、他社のような読書案内はありません。以上が学校図書です。

続いて三省堂です。観点1内容は記載どおりです。観点2構成及び分量と観点4使用上の便宜を合わせて御説明いたします。本編と資料編の2分冊でB5判です。2冊に分かれているのが特徴です。目次には、表現力、理解力、思考力、伝え合う力とつきたい力が書かれています。目次の次に領域別の目次があります。「確かめよう」に学習の目標があり、本編と資料編との使い方も書かれていますので、生徒が見通しを持って学習することができ、言葉の力をつけることができます。また、特徴として3学年とも冒頭に古典や詩歌が記載されています。これは今回の学習指導要領の改訂で、小学校にも古典が導入され、小学校と中学校とのつながりを意識してだと思えます。観点3表記及び表現ですが、文学的文章や説明的文章のゴシック体のタイトルや、挿絵や写真が文章に比べて大きく、ややアンバランスです。観点5(1)の話すこと・聞くことの教材は、生徒自身が行うことがより明確になっている記載です。(2)の読み物教材ですが、本編と資料編とを合わせると、5社の中で一番読み物や詩歌の教材の数が多いです。(3)の漢字学習については、小学校で学んだ漢字を使いこなせるようにする練習問題が多いです。(4)読書指導は記載どおりです。

続いて、教育出版です。観点1内容、観点2構成及び分量、観点4使用上の便宜を合わせて御説明いたします。本編と付録の2部構成になっています。配置が「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統文化と言語」の領域別に配置されているの

が特徴です。また、目次があり、その後に折込の学習のねらいがあります。学習のねらいには関心、意欲、態度の項目があるのも特徴で、生徒が見通しを持って学習することができ、言葉の力をつけることができます。印刷装丁では、学習記録シートが折込でやや使いにくいという声が調査委員の一致した意見でした。観点3表記及び表現は、本文の文字の大きさが他社と比べ学校図書と同じでやや小さ目です。観点5(1)話すこと・聞くことの教材については、チェック項目が多く、生徒が行うことが明確で、2学年では司会や提案者を立てた話し合いがあるなど、新学習指導要領に対応しています。(2)の読み物教材については、古典は落語、歌舞伎、狂言が入っています。また、説明的文章は言葉をテーマにした2作品を述べ、構成や展開、言葉の表現などの読み比べができる教材が掲載されています。漢字は記載どおりです。読書は、読書への招待の後に、関連する本が紹介されてはいますが、表紙と題名、作者はありますが、どのような本かという解説はありません。

最後に光村図書出版です。観点1から観点4を合わせて御説明いたします。装丁が1学年は緑というように、学年によって変えたつくりになっています。目次は単元別の目次の後に、領域別の目次がある。その後により詳しい「学習の見通しをもとう」という領域ごとのつけたい言葉の力が書かれている表もあります。また、「学習を広げる」という資料の最初には、「学習に役立てよう」というほかの教科にも生かせる言葉の力の一覧表もあります。よって、生徒がより見通しを持って学習することができます。説明的な文章では、二つの作品を並べて、はじめの基本的な文章で、例えば段落の役割を習得して、次に記載されていた文章で習得した前の力を活用して段落の構成を読み取るという方法で記されています。観点5(1)話すこと・聞くことの教材については、三本立ての大きな教材のほかに、「スピーチ名人になろう」などのコンパクトな練習問題があります。(2)の読み物教材については、資料に古典落語などの説明のほかに、古典から近代文学のさびの部分などが記載されています。文学的文章は以前から親しみやすく定評のある作品が数多く載っています。(3)の漢字学習については、小学校で習った漢字や常用漢字表に追加された漢字などの練習問題が多いです。(4)の読書指導は、読書教材が多く、図書紹介も254冊と一番多いです。

以上で、国語の説明を終わります。

小田原委員長 資料作成委員会から報告がありました。ただいまの説明について、御質疑をいただきたいと思います。何かありましたら、お話しいただきたいと思います。何か

ございませんか。

和田委員 どうもありがとうございました。

幾つか質問をさせていただきたいのですが、まず、観点1の内容のところに記載されている本市の学力の実態とか、恐らく光村のところは学力が抜けているのでしょうか。これは学力の実態でよろしいのですか。(3)のところ。

枝村教科別調査部会「国語(国語・書写)」部長 申しわけありません。これは記載のミスです。

和田委員 そうですよ。そうすると、本市の学力の実態への配慮という中に見合っているとか合わない部分があるというような表現があるのですが、これはどういう基準で実態に見合っているか見合っていないかという、そういう判断をされたのかというところが、まず1点お伺いしたい。

それから2点目は、三省堂のところではかなり小学校との接続のことを取り上げて説明をされているのですが、ほかの教科書についてはその部分が余り書かれていないように思うのですが、これはやはり三省堂の特筆すべき内容なのかという、そういう点ですね。

それから、3点目が、観点5の総合所見のところに、三本立てになっているところと、それから学校図書が二本になっていて、「聞く」というところがない、「聞く」という内容が、特にそれだけ取り上げられる必要がないのかというか支障がないのかどうか。要するに「聞く」ということを中心に取り上げた内容がなくても、それは特に指導上支障がないのかということですね。

それから最後にもう一つなのですが、これはなかなか難しいと思うのですが、取り上げられている教材、特に観点5(2)の読み物教材などのところで、いろいろ表現が分かれているところがあるのですが、例えば幅広い分野から題材を取り上げられているもの、これが学校図書ですか。三省堂が現代的な課題を取り上げられているもの。それから教育出版などは、説明文では比べ読みが行える教材というような内容が出ていますが、こういった題材というか文章の内容は、何か指導上大きな違いが出てくるものなのでしょうか。その内容を取り上げるか取り上げないか、あるいはこういう視点で教材を取り上げているということは、指導上の違いというもの何か出てくるものがあるのでしょうか。

ちょっと多くなってしまって申しわけないのですが、その辺のところを御説明をいた

だけるとありがたいのですが。

小田原委員長 何点かありましたけれども、よろしいですか。

枝村教科別調査部会「国語（国語・書写）」部長 1点目の本市の学力に見合っているか見合っていないかということですが、本市の学力調査などを聞いたところ、標準的であるという話を伺いました。そこで、学校図書に関してのみは、大変発展的な教材が多いということ、それから、学習指導要領の範囲を超えている文語文法なども出ているということで、こちらのみは本市には合わない部分があるのではないかとということでとらえています。

2点目ですが、古典が小学校の方でも入ってきています。それを重視したようで、冒頭のところ、1学年から3学年まで、すべて三省堂は古典教材を扱っているので、特に強調して書かせていただきました。他の教科書もちろんほかの分野に関して、小学校との関連を考えた教材づくりにはなっております。

3点目の「聞く」がないというところですが、今回の学習指導要領では、今までと違ったのが、「話すこと・聞くこと」が一つだったのですけれども、内容として1「話すこと」、2「聞くこと」、3「話し合うこと」となりました。その影響で、他社の教科書は三本立てになっていますが、学校図書は今までと従来どおりの「聞く」だけの教材はありません。ただし、インタビューをしようだとか、またはパネルディスカッションなど、「聞く・話す」ということで一体として入っていますので、丁寧ではないかもしれませんが、「聞く」について入ってはおります。

最後の読み物教材の内容ですけれども、指導上特に影響はありません。どの教科書に関しても非常に工夫された、生徒の興味関心を呼ぶ教材が取り扱われていると思っています。以上でございます。

小田原委員長 いかがですか。今のお話を伺うと、例えば本市の学力が標準的であるという観点から言えば、発展的な教材があれば標準的な学力を伸ばすことになると思うのですが、そうすると、そういう発展的なものはよくないというふうになるのですか。

枝村教科別調査部会「国語（国語・書写）」部長 よくないというわけではなく、どの教科書にも学校図書以外は習得と活用の二つが入っておりますので、基礎的に習得してそれを活用するというところまでは入っております。ただ、学校図書に関しては、それを探求していく、批評的に読むなど、分量も多く、本市の学力には少し多過ぎるのではな

いか、見合わない部分があるのではないかというふうにとらえています。

小田原委員長　そのところがわからないのだけれども、学校図書にしても、例えば小説なら小説は三つの段階で置いているわけですよ。だから、分量が多いと言うけれども、生徒の実態に応じて三段階目はやらなくてもいいというふうに言えるはずですよ。他社の場合には、その発展的な教材というのは、末尾に載せたり、学習の課題とか、昔学習の手引きと言っていたような部分をつけないでいる。だからやらなくてもいいというふうにはっきり言えるわけですが、学校図書はそれぞれに学習の課題、学習の手引きをつけているわけです。だから、それはやらなければいけないとかという話ではなくて、これは多いから本市の実態に合わないというふうな話には私はならないだろうと思うのですね。

それから、古典文法がこれは指導要領外の話だというのだけれども、それも資料として載っているわけであって、それは資料としてはむしろ意味があることだというふうに言える話ではないかと思うのですけれども、いかがですか。

枝村教科別調査部会「国語（国語・書写）」部長　ご指摘のとおり、指導者の指導の仕方によっては、例えば最後の探求を抜かしてみるだとか、文語文法はこんなのがあのだよという資料として扱うということは可能だと思います。

分量の面で特に、新採の先生等もいらっしゃるので、この教科書を使いこなすのはやや難しいのではないかとということで書かせていただきました。

小田原委員長　今の話も少し気になるのだけれども、新採の先生に当たったら不幸だという話になってしまうのではないですか、そういう話は。

枝村教科別調査部会「国語（国語・書写）」部長　不幸というわけではないですが、初めて教科書に当たる先生なので、勉強がより必要かとは思いますが。

小田原委員長　何とも言えませんけれども、ほかにいかがですか。

川上委員　5社のものを全部読ませていただきました。それぞれに工夫がなされて、とてもすてきな教科書だというふうに思いますし、これで何を教えようかという、先ほどの新採の話にもありますけれども、教えることというのは、国語で伝えるということはすべてだと私は思っているのですよね。例えば、物理とか数学とかそういう専門的な分野に関してはあれではないですけれども、それを伝えるのもやはり言葉だというふうに、国語だというふうに思っています。それで、全部読んだところ、本当に書いてある内容というものはすばらしいと私は思っています。どの教科書をとっても、生徒たちにすべ

てを伝えることができる。つまり、心も体も哲学も情操も、全部伝え切れるのだろうなというふうに思って読ませていただきました。

その中で、先ほどありました、光村図書出版の学年によって色が変わっているというところ。結局ここだけ書かれてしまいますと、それだけ。ただ、その最後のところに色のいろいろが出ていますよね。その色のいろいろというものは何なんだろうと、そこは私はとてもすばらしいと思って見たのですね。学年によって違ってしまうのがどうかというふうには思いますけれども、色というものを伝えるということは、非常に大事なことなのではないかなというふうに思って、ちょっとこの報告書の中では色というだけになってとどまっているというふうにちょっと感じたものですから。

それから、一つ気になったことがあるのですが、訳文を文と書いてあったことは、少しこれは違うのではないかなというふうに思いました。どこの会社でしたか。そういうことは、当然、現場で教科書はこのままではないのかもしれませんが、ですから内容的にはどの会社もすばらしいものだなというふうに思いますし、これを扱う先生は、これで伝える先生方は、それぞれのすばらしさをわかって、それから勉強して伝えていただきたいと思っています。

石川教育長 非常に単純なことを、授業を受ける子どもたちの立場に立ってお尋ねをしたいのですが、教科書の大きさは、かつてはA5判が多かったというふうに思いますけれども、最近の傾向としてB5判になっている、かなり多くなっているわけで、その点からいくと学校図書のページ数が多くなっているのは、A判で小さいだけにそれだけふえているのかなという気がしますけれども、子どもたちの使っている机の面積、これは昔と余り変わっていないですよ。そういう中で、二分冊になっていたり、あるいは厚いのを無理やり広げるような使い方というのは、子どもたちにとってどうなのかというのが一点。

それからもう一つ、観点5(4)の読書指導に関して、各社合計紹介冊数が出ているのですが、学校図書はないですね。それから、教育出版については、教材ごとに3冊から6冊あると。これを平均すると、ほかのところと同じようにトータルするとどのくらいになるのか、本市としては読書活動を推進しているわけで、この辺について少し関心があるものですから、教えていただければと思います。

枝村教科別調査部会「国語(国語・書写)」部長 教科書の大きさですけれども、確かに昔の教科書はこちらの学校図書の大きさでした。子どもにとって、机の大きさとの比べ

だところらの小さな教科書の方がよいかと思えますけれども、文字の大きさだとか、または写真や挿絵などの入り具合を見ますと、こちらのA4判の方が今の子どもたちにとってはなれ親しんでいるものであり、読みやすいものではないかと思えます。

あと三省堂のものですけれども、こちらは二分冊になっているので、子どもたちにとっても、それから先生にとっても使いづらいのではないかという意見が大半でした。

あと、教育出版の、冊数は数えていません。すみません。

石川教育長 中学生にどのくらいの数の本を読んでもらいたいのか。希望として挙げるとすると、どのくらいになりますか。

枝村教科別調査部会「国語（国語・書写）」部長 希望ですか。50冊ぐらいは。本屋さんで見ると、昔は夏休みに読む本の紹介は100冊だったのが、最近では50冊、30冊とだんだん減ってきています。ただ、子どもたちには、欲を言えば1年間で30冊から50冊ぐらいは読んでほしいなという意見があります。

小田原委員長 今の話だと、今も目録を100冊出している会社もあるわけですよ。

50冊になっている会社ももちろんあるのだけれども。数はどのくらいかというと30冊から50冊というふうにいえるか、その根拠がわからないのですけれども、教科書でそういうふうに掲載するののも一つの啓蒙的な部分というのがあるだろうと思うのですけれども、学校図書があえて載せていないのは何でかと言うと、私は学校図書の場合には、書き下ろしが非常に少なく、でき合いの物がほとんどだと言っていいと思うのです。しかも、ほかの教科書で取り上げないものも入っているから、例えば最近の吉田修一の「Water」も入っているものだから、扱いにくいというふうな言い方がされているのではないかというふうに見ている。私は中身からいくと、先ほどの川上委員の話のように、ほとんどの教科書は非常にいい教材を並べているのです。そういう中でも学校図書というのは、これは教えたいなという中身のものが、非常に多かった印象があるのです。だから、それを目次だとか、聞く話が一本になっているとかということでもって、そういう点で否定されるようになるのは惜しいなという感じがするのです、内容の上から。

もう一つお伺いしたかったのは、共通教材、先ほど「少年の日の思い出」が出てきましたけれども、これは「走れメロス」もそうですし、魯迅の「故郷」も入っている、ほとんどが取り扱っているのだけれども、その辺に対する先ほどの学習の手引き、学習の課題みたいなものが会社によってそれぞれ違うのですよね。本文以外の部分なのだけ

ども、その子どもたちへの迫り方で差はあるのかないのかというのを伺いたかったのだけれども、いかがですか。

枝村教科別調査部会「国語（国語・書写）」部長 学校図書のまず教材ですけれども、私も例えば田口ランディさんの「クリスマスの仕事」など、人徳流なものがたくさんあり、子どもたちに読ませたいと思うのは確かにたくさんあると感じています。

それから、必ず出てくる「少年の日の思い出」「走れメロス」「故郷」ですけれども、迫り方は多少違いますが、根本的なところは同じなので、それに関しては差を私は感じていないです。

小田原委員長 お聞きしたいことは出ましたか。いいですね。

それでは、特に国語の場合にはさまざまなものをすべて読まなければいけないという大変な作業だったと思いますけれども、資料作成委員の皆さんからの報告は以上ということによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 どうもありがとうございました。

では、国語についての協議は終了ということによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 はい、ではお疲れさまでした。

小田原委員長 引き続いて、国語の書写について、資料作成委員会から御報告を願います。

門馬教科別調査部会「国語（国語・書写）」副部長 それでは、書写について説明させていただきます。

現在、八王子市で使用している教科書は光村図書出版でございます。最初に、お手元の報告書について4点補足いたします。

第1点、毛筆手本の半紙サイズという表記があります。この毛筆手本の半紙サイズというのは、手本として、ほぼそのままの大きさと書くことができるという利点があります。また、書き初めの手本についても、大サイズという記載がありますが、この手本は同じようにほぼそのままの大きさと書くことができるという意味で報告書に載せてあります。

2点目、3学年の書写に関する指導事項は、身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くです。お手元の報告書では、教科書の3学年の範囲に掲載してある教

材数などで判断していますが、教科書会社によっては3学年の範囲の教材は少ないのですが、資料の形で教材として使えるものを掲載している、そういう教科書もございます。また、資料の内容には、発展的な教材の場合もございます。これらを、後ほどの説明では、手紙の書き方、それから年賀状というのを例にして御説明いたします。

第3点、観点2構成及び分量の(3)基本事項の押さえと補充教材について、ここで記述しました毛筆、硬筆の基本事項とは、書くときの姿勢、それから筆記具の持ち方、こういったことについて判断いたしました。また、(4)発展教材への配慮では、書き初めも発展教材として考慮に入れていきます。

第4点です。観点3表記及び表現につきましては、お手元の6社すべて記載しております。ですので、この後の各社の報告では、観点3の説明は省かせていただきます。

では、各社の報告について、ご説明いたします。

最初に東京書籍です。観点1内容です。毛筆手本の半紙サイズは、楷書、行書、行書と仮名が一つずつ入ってきます。書き初めの大サイズ手本は、各学年一つです。観点2構成及び分量。1学年に四つ、2学年に三つ、3学年に二つ、「生活に広げよう」というところがございます。これは、日常生活に即している内容ですので、3学年の身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くという点での要素が非常に強いところだと思います。東京書籍では、年賀状は1年の生活に広げよう。手紙の書き方は、2学年の資料のところに載っています。毛筆楷書の取り扱いは、手本が二つです。観点4使用上の便宜です。「考えて書こう」というところがございますが、これは新しい学習指導要領の論理的思考力というところを意識した取り組みだと思います。観点5総合所見の硬筆の内容についてです。東京書籍では、指導事項が行書になったところから、硬筆については鉛筆からフェルトペンやサインペンの教材が多くなります。書き込みできる量はそう多くありません。

続きまして、大日本図書です。観点1内容です。毛筆の手本が小さいために、半紙サイズに書くこと自体が中学生には難しいのではないかと思います。ただし、解説は非常に丁寧です。観点2構成及び分量です。大日本図書では、手紙の書き方は3学年の教材、年賀状は1学年の「生活に生かして」というところでも取り扱っています。書き初めの大サイズの手本はありません。観点4は記載しております。観点5総合所見のその他、独特の書体の例というのは、1学年の「流星」2学年の「秘伝」等があります。2学年の終わりに、部首の書き方を学ぼうという教材があります。これはほかにもございません。と

ても珍しいと思います。

続きまして、学校図書です。観点1内容です。学校図書は3年間で1冊の教科書にまとめられています。半紙サイズの手本は楷書が二つ、行書が三つです。観点2構成及び分量。1冊の構成のため、発展的な教材が少ないと報告書に記載してありますが、これは3学年の内容だけではなく、最後に書写便利図鑑というのがございます。それを合わせたものでも考えました。それでも量は少ないということです。書き初めの大サイズの手本は、1学年と3学年に一つずつございます。手紙の書き方、年賀状は、書写便利図鑑に掲載されています。観点4は記載どおりです。観点5総合所見の硬筆の内容について、学校図書の硬筆の書き込みが少ないのは、ページのレイアウトの関係だと思われます。教科書を開いたときに、非常にすっきりして見やすい教科書です。

次に、三省堂です。観点1内容は、半紙サイズの手本は楷書が一つ、行書が二つです。観点2構成及び分量です。三省堂では、単元構成を行っています。この単元構成で硬筆、毛筆を関連づけていると表記してありますが、例えば1学年で行書の特徴、点画が連続するところを学ぶときには、まず「考えよう、話し合おう」というところで、連続させるとなぜ早く書けるのだろうかという質問がなされます。それを、硬筆の例、二文字を使って確認します。答えは、つながるから、連続するからということなのですが、その気づきを生かして書こうというところで、硬筆の書き込みを6文字行います。最後にそれを毛筆で確かめようということで、巻末の手本の行書の「元気」という字を書きます。今、申し上げましたことが、硬筆、毛筆を関連づけた単元構成ということでございます。ですので、毛筆の手本には、既に内容を理解しているはずなので、解説はほとんど省略されています。手紙の書き方は、2学年の「学習を生かそう」、年賀状についての掲載はありません。2学年3学年用教科書、「文字の使い方を工夫しよう」というところから後が3学年の範囲ですが、3学年の教材は少ないと思います。書き初めの大サイズ手本は、各学年一つずつです。観点4使用上の便宜。資料編は日常生活に即していますので、3学年の要素が強い内容だと思います。解説は少ないです。

教育出版です。観点1内容については、半紙サイズの手本は楷書一つです。観点2構成及び分量は、年賀状は1学年、手紙は1学年と2学年、3学年では感謝のはがきというように、各学年の課題に生活に使用できるものが入っています。毛筆の運筆の解説は、どの教材もとてもわかりやすいです。書き初めの大サイズ手本は、各学年一つ載っております。観点4使用上の便宜ですが、「目標に合わせて振り返ろう」というチェック欄

があります。自己評価をしやすいつくりになっていると思います。観点5 総合所見は記載どおりです。

最後に、光村図書出版です。光村図書出版も3年間で1冊にまとめられています。

(3)の本市の学力の実態への配慮に解説が少ないと記入してあると思います。これは、手本自体に直接書き方の解説が記入されていないということです。例えば、行書の特徴と行書の筆遣いというものを学んでから、確かめるために手本が用意されているというスタイルですので、特徴や筆遣いは既に学んでいるので手本には記入されていないということだと思います。ただ、その点から言いますと、中学生にとっては、本市に限らず難しいのではないかなと思います。観点2 構成及び分量は、手紙の書き方、年賀状、すべて資料のところに載っております。書き初めの大サイズ手本は、各学年一つ。小さいサイズの手本が各学年二つついています。半紙サイズの手本は行書が一つです。折り込みになっているものでございます。毛筆の手本は少ないと思います。3年間で九つです。観点4 使用上の便宜ですが、各学年の最後にある「広げよう」というところでは、日常生活に即している教材が載っていますので、3学年の要素が強い部分かと思います。1学年では「学校生活に役立つものをつくろう」、2学年では「絵手紙で気持ちを伝えよう」というのがそれに当たります。観点5の総合所見は、記載どおりです。

以上で説明を終わります。

小田原委員長 資料作成委員会からの報告は以上でございますが、何か御質問はございませんか。ありませんか。

では、私からお伺いしたいのですが、最後に光村図書出版のところで、解説が少ないから本市に限らずちょっと高度、難しいのではないかという話があったのだけれども、書写そのものが、中学校の段階でかなり虐げられているのではないかと、私は感じているのですが、現場では実際どうなのでしょう。光村図書出版が、当然言わなくてもわかることだから、ほかの教科書の場合には小さい字で注がついているわけで、そんなのを子どもたちは見ないだろうと、だから光村はそんなのをわざわざつけなかったともいえるわけですよ。そうすると、やや高度だというふうになっていくとなると、当然やってきていることだからということではなくて、やはり丁寧に教科書の中で示す必要がある。それほど、書写の時間というのは少ないし、それからお習字という部分ではなくって、手紙、はがき、伝票というようなものも書写の中に入っている。そこでかなり圧迫されているのではないかなという感じがするのだけれども、どうなのでしょう。

門馬教科別調査部会「国語（国語・書写）」副部長 書写に関して、特に書道の方でいい
ますと、そのために道具をそろえたりというふうなことが当然ございますので、単純に
その差で言えば書道の方が大変だとは思いますが。ただ、今回の学習指導要領の点でもあ
りますが、文字は文化であると。文字を文化として認識して、意図に合わせて、また必
要に応じた書き方をするということですので、これは筆に限らず、フェルトペンである
とか硬筆であるとかボールペンであるとかというふうな、文字というものが文化なのだ
というところを伝えるというふうなことがまず先にあって、さまざまな用途に合わせた
書き方を練習しようということですので、書道、毛筆で書くということについては、今
までよりももしかすると少なくなるかもしれない。ただし、基本として押さえなければ
いけないのは、文字は文化なのだということを押さえるところが、この教科書
を使って指導する先生方の一番の大事なところではないかなとは思っております。

石川教育長 観点3の表記及び表現のところ、1社、光村図書出版が見通しのところで
漫画を使っていますよね。今、一国の総理が漫画を愛読する時代ですから、私も漫画は
否定しませんけれども、果たして中学生の教科書の中で漫画を扱うのがいいのかどうか。
この辺は若い先生が多くなってきている中で、教員の感覚としてこの辺のところをわか
る範囲で教えていただければというふうに思いますけれども。

門馬教科別調査部会「国語（国語・書写）」副部長 今の御質問は挿絵のところ、こう
いう絵を使っているということですか。それとも、一番最初の部分ですか。これを現場
の教師としてはということですか。正直、そんなにこだわりはないと思います。漫画だ
からだめということでは逆はないという意味で、いずれにしても、先ほども申し上げ
ましたように、文字そのものが文化なんだというふうなことを伝えるために、例えば
こちらでも文字の変遷であるとか、教科書によっては臨書をさせたりとかという、さま
ざまな試みはされておりますので、今、教育長からの扉のところの漫画一つでは多分そ
ういう判断には現場の先生方はならないと思います。

小田原委員長 漫画が文字を含めて、総合的な芸術だといえ言えると。それはいいか悪
いかとかというふうな判断になっていきますので、作成委員会の方ではそう気にはなら
なかったということですね。私は、社会科でも出てくるのですけれどもね、漫画みたい
なところが教科書の頭のところに出てくることについては、いかがかなという感じはし
ますけれどもね。

ほかにいかがですか。

和田委員　この書写の教科書というのは、具体的に学校で使うときに、お手本だけあれば先生があとは指導するというような印象があったのですけれども、やはりいろいろな解説があったり、写真があったり、そういうものもやはりかなり必要になってくるものなのではないでしょうか。

それから、この中に大日本図書とか学校図書のところに写真が少な目だというふうに書いてある部分があるのですが、こういったものが指導上差が出てきたりとか、そういうものを見ながらやった方がやはり指導としてはしやすいのか、その辺はいかがでしょうか。

門馬教科別調査部会「国語（国語・書写）」副部長　写真がなければ指導できないかというところではないと思います。ただ、視覚的に訴えるものがあれば、より指導しやすいということは間違いなことだと思います。使う、使わないというのは、やはり現場の先生の判断だと思いますし、こういう言い方はなんですが、書道がとても上手な先生もいれば、ある程度書けるといふ先生ももちろんいるわけですので、そういった場合にはこの手本の写真というのは非常に大事な部分になってくるのではないかと思います。

今、御質問がありました大日本図書と学校図書についての写真が少ないというのは、会社によっては、扉絵ですとか挿絵のような形で写真が入っているところはあるのですが、ここで判断したのは指導上使う写真が多いか少ないかということです。途中で花の写真があるとか富士山の写真があるとか、そういったことは一切考慮しておりません。

小田原委員長　筆順が全部ついているのとなっていないのというのが象徴的だと思うのですね。だから、全部の漢字に筆順がついている必要があるのかどうか。それはないだろうというふうにも思うのだけれども、では平仮名についているのとなっていないのともあるわけですね。平仮名にもついていなければいけないのかというところが、教える立場からの要望があれば、書写を専門に教えるわけではない先生が結構いる中で、教科書が丁寧にならざるを得ないのかなという状況を示しているのかなと私は見えています。

水崎委員　一つ教えてください。小学校と中学校のつながりというのですか、そこら辺は書写についてはどうなっているのでしょうか。

門馬教科別調査部会「国語（国語・書写）」副部長　小学校で既に特に楷書の部分はかなりやって中学に上がってくると思います。中学でやる楷書は、もう小学校でやったところのまとめが最初です。すぐに行書に入って、行書と仮名というふうに移っていきます。それを基本として、硬筆につなげようと。基本は書道で筆遣いを学びというふうな取り

組み方になっています。ですので、小学校で硬筆を全くやっていないとかということになりますと、中学校でその部分を今度はかなり時間をかけてやらなければいけないので、小・中の接続ということでいけば、書写ではその部分、楷書をきちんと小学校でやっていたらいいということになると思います。

小田原委員長 そのほかいかがですか。

川上委員 今回この書写の教科書で、この報告にありますように、何が幾つ、何が幾つというふうに報告がございますけれども、これは事実ですから。授業を進めるときに、教科書のみを使うのですか。

門馬教科別調査部会（国語）副部長 まず、それはないと思います。教科書だけで教える、もしくは教科書を教えるのではなくて、教科書を使いますので、基本的にはほかの教材というか、自分で手製でつくった教材なども使いながらということになると思います。

小田原委員長 使い方だと思いますけれどもね。教科書によっては、書写ではなくて国語の教科書に載った中で、好きな文章を取り出して書きましようとか、ほかの何かを見てとかそれぞれ工夫はされているわけで、これ以外のものを持ち込んでやりましようみたいなことは先生たちに働きかけている工夫はされているところもありますよね。

水崎委員 一つ教えてください。書写の指導に配当する授業時数、これは一応載ってはいたのですけれども、1年、2年で年間20単位時間程度。3年で年間10単位時間程度となっているのですけれども、大体それで今、学校でやっている、これからやっていくということによろしいのでしょうか。

門馬教科別調査部会（国語）副部長 はいそうです。

小田原委員長 ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 それでは、書写については特にないようでございますので、資料作成委員会からの報告は以上で終わりということで、よろしいですか。

長時間ありがとうございました。

小田原委員長 それでは、続けて社会科に移ります。社会科はまず地理的分野から始めたいと思います。御準備をお願いいたします。

それでは、社会科地理的分野の資料作成委員会からの御報告をいただきたいと思ひます。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長　私は社会科地理部長をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

川口教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」副部長　同じく副部長をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長　それでは、社会科の地理部会から報告をさせていただきます。

地理の教科書につきましては、現在、帝国書院を使用しております。最初に、学習指導要領の変更に伴い、変更となりました内容につきまして、各社共通の事項について、まとめて説明をさせていただきたいと思っております。

まず一つ目は、内容構成の見直し。世界全体の基本事項に続きまして、世界編が専修となりました。この中で世界各地の特色や課題をとらえ、基本的、基礎的な知識、概念、地理的技能の習得。二つ目は、世界に関する地理的認識の重視という観点で構成されております。三つ目は、地理的技能の一層の重視という観点により、資料、グラフ、写真等の読み取り方、また資料などを用いて多面的、多角的に考察し、一層の理解と判断をさせるテーマ、補助的な学習課題が盛り込まれております。四つ目は、社会参画を視点に入れました身近な地域の調査、あるいは地域調査の学習がそれぞれ盛り込まれております。各社の教科書の最初の部分では、世界の地域や日本の地域というような項目を起こし、地球儀や世界地図を用いて地形、地図の見方。次に、世界の各地と様子ということで、気候による生活文化等の違いなどを扱い、地理学習の導入としても使えるような設定となっております。また、後半の最初は、世界と日本の関係、調査方法、あるいはレポートの書き方、地図の見方や環境、気候、各地の課題や宗教等を扱うなど、世界の各地域と日本の各地域の地史的な学習を扱っております。

それでは、各社の説明を、最初に提出させていただきました資料の順番で説明させていただきます。

最初に東京書籍でございます。教科書自体はA判ながら大きいサイズになっております。したがって、文字や資料などが大きく表示され、教科書内への書き込みもしやすくなっております。基本的事項を押さえるために、「試してみよう」「深めよう」「章のまとめ」「振り返り」がございます。また、発展、課題解決を促す内容としては、「自由研究」「スキルアップ」という項目を設定して、生徒に考えさせる内容になっております。日本編では、九州から始まり、各地域にテーマを設けて学習に取り組ませており

ます。中でも、関東地方ではさまざまな地域と結びつく人々の暮らしというテーマで、首都東京が他の地域とどのように結びつき発展したのか、これに合わせ農業や工業等の産業等について学習するように扱っております。

続きまして、教育出版でございます。教科書のサイズはA4判です。「読み解こう」「トライ」「地理の窓」という囲い込み記事を利用して導入、基本的事項を押さえ、さらにその章の章末に「学習のまとめと表現」ということで、学習の内容を定着、確認させております。課題発見や解決等、発展的な内容は一部の「トライ」というところや、「地域から世界を考えよう」「現代日本の課題を考えよう」というところで、学習した内容をさらに深めさせようとしております。世界の諸地域では、テーマを決めて地域をとらえようという形で、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアの順でまとめております。「地理の窓」という囲い込み学習では、興味・関心を広げさせる工夫もあります。各地域の最後に、「地域から世界を考えよう」という項目では、発展途上国の都市と貧困、原子力発電と環境問題等、世界に関係する広い課題を取り上げて学習できるようになっております。後半の日本編では、九州地方から学習し、さらに九州、中国、四国地方をまとめて西南部と称し、この地域全体の学習のまとめを設定しております。また、この章でも、「現代日本の課題を考えよう」と題し、「公害を乗り越えよう」「世界遺産と町並みを守る」等のテーマで社会的な課題を提示し、考えさせるようになっております。

続きまして、帝国書院でございます。サイズはA4判です。基本事項の押さえといたしまして、「地理のポイント」「やってみよう」「技能を磨く」などで、その地域で学習する内容を確認しております。「チェック・アンド・トライ」という項目では、授業で学習した内容を振り返り、あるいはさらに関連事項や深める課題となっております。章末の学習のまとめでは、その単元で学習した内容を確認及び発展的な項目があり、問題は多様に設定されております。コラム的な内容では、「さらに深めよう」というページに設定されておまして、地球温暖化、発電所とエネルギー問題、環境保全、食文化等を取り上げ、現代課題を深める内容となっております。第1部の世界編では、各地の概要とともに地理的技能を理解させるための基礎的、基本的な内容が表記してございます。第2部の日本編では、世界と比べた日本の地域的特色を設けてあります。九州から始まります各地方では、テーマを決めて代表的な産業や人々の暮らしを扱っております。よりよい社会に向けて、「地域の底力」と題し、地域のポイントとなる事項を取り上げ

ております。

次に、日本文教出版でございます。サイズはA4判です。章の始めの「ナビ」では、学習する内容を、「キーワード」では、資料の基本的な見方を示しております。「自由研究」では、各地で実施されている取り組みを紹介しております。章末の「学習のまとめ」では、章で学習した内容を振り返りと深める題材が出題されております。本の構成では、「導入ページ」「学習の活用」「出かけよう施設見学」「日本とつながる」「地理ズームイン」などの項目があります。また、重要な用語説明では、キーワードを設定し、説明されております。本のマークがついたコーナーでは、地理学習を進めるに当たり、必要な知識、技能の解説が盛り込まれ、緯度・経度を使った学習、インターネットの活用、日本の略地図の描き方、聞き取り調査の方法などが盛り込まれております。他社に比べ扱っている国や項目が多いため、総ページ数は多くなっております。世界編では、日本とつながるというページで、その地域と日本の地域とのかかわりを取り上げております。また、日本編では「出かけよう、施設見学」という項目で、その地域の施設を紹介し、身近な観察の学習につなげております。

以上で御説明を終わらせていただきます。

小田原委員長 資料作成委員会からの説明は終わりました。

この御説明に対して、御質疑はございませんか。

和田委員 それでは、まず全体にわたってなのですけれども、難易度のレベルというのはやはり出ているわけなのです、中レベルとか。それから日本文教出版のところは、やはり高レベルとなっていますよね。こういう内容の、基準を教えてくださいたいのと、先ほど国語のところでも議論があったのですけれども、難易度が高いと、それが意欲的な取り組みになるのか、あるいは難しくてできないという、そういう解釈になってくるのか。レベルの違いと、そのレベルに応じた指導の仕方について、先生方はどう思われているのかというのが1点です。

それから2点目なのですけれども、教科書が非常に充実してきたというか、中身が濃くなって資料も多くなってきている中で、内容的には観点2の(4)発展教材への配慮なのですけれども、あれだけたくさん内容を勉強してきて、さらに発展的な学習の内容が示されていますよね。学校の授業の中で、この発展的な内容の教材というのは、どういう扱いになっているのか。非常にたくさんものを勉強してきて、さらにこれを自分で勉強しなさいと、生徒たちに任せているのか、あるいは先生たちも丁寧にこの辺の

ところは説明したり読んだりというようなことになっているのか。これが2点目。

3点目は、ちょっと細かいことなのですからけれども、教科書の中に練習問題のような、要するに穴埋め問題が入っていたりとか、そういうものがあるものとないものがありますよね。その辺なんかは、どんなふうにお考えになっているのか。ちょっと御説明をいただけるとありがたいと思います。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長 第一点目の難易度ということでございますが、部会の中で話している中で、地理の場合は中学1学年と2学年で学習をします。1学年のときはかなり論述的な内容で答えなければいけないので、かなり社会的には難しいのではないかと。ただ、2学年になれば、逆にそういうことはやらせていった方がいいのではないかと。答え方が論述的に答えられるか。あるいは、本当に簡潔な文章で終わってしまうか、それは人によって違うと思いますが、子どもたちの様子を見てみると、社会科の得意な子は割といるかと思えます。どの分野というわけではないのですが、そういう子にとってみれば、我々が難易度と表記している部分については対応できると思えます。ただ、都道府県名がわからないというか、表記できないような子どもたちにとっては、ちょっと難しいかなと感じております。そういう意味で、両者がまざっている形の方がよろしいかなと考えております。

それから、2点目の発展教材についてでございますが、大まかなものとしては大体コラム、囲い込み記事等で扱っているものが多いので、授業の中ではその部分について、まずほかの教科書のページと同じように事細かく解説することはできませんけれども、取り上げて、そしてそれを少し深めていく。内容としては、割に現代の課題が多く取り上げられているものがあります。世界遺産であったりとか、エネルギー問題であったりとか、そういうようなことに関しては、逆に少し時間を使って深めていってもいいのかなと感じております。

練習問題の穴埋めについては、委員会自体では特別復習という意味で、まとめという部分で問題にはなっていないのですが、個人的には、問題集がくっついているなという意識にはなりません。ただ、今の子どもたちの社会科の用語というものをとらえさせる部分では有効かなというふうには思っております。

和田委員 そうすると、先ほどの話のように、高いレベルの内容だと判断して、論説的に説明しなければいけない、その辺のところ子どもたちは苦手な部分があると、そういう子どもがいたときに、それを指導した方がいいというふうにするのか、1学年の段

階では無理だから、そういう中レベルぐらいの内容、一緒にまざった方がいいというお話をされていましたが、そういうようなことを考えると、どうなのでしょう。これは後の穴埋め問題も同じなのですが、結局私が気にしているのは、練習問題の後半に出てきているのが単語を答える形になっていて、これは教科書会社によって違うのですが、説明を求めるような質問をしている会社と、穴埋めをしなさいという問題、今の話のように論説的なところが苦手な子どもたちに対して、最終的にここの単語を覚えていけばいいよという話になってしまうと、物を考えたりとか説明したりする力が求められているときに、何か最終的にはこれができるよというふうなことになるのかなという、そういう懸念をして御質問をしたのですが、

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長 おっしゃるとおりだと思います。

重要語句を確認するという点ではそういうものがあったらいいかなと。前段の部分の論述については、その子なりの書き方で僕はいいと思うので、最初からできないからやらないではなくて、内容を説明して、「あなたはどのように考えますか」というところから始めていけば、1学年でも十分指導できるのではないかなというふうに考えております。

小田原委員長 難易度の高・中・低というのは、補充のところだけの難易度ですね、ここで言っているのは、教科書全般の難易度というような、その基準みたいなものは、ここでは触れていないということですね。そこははっきりしておいた方がいいと思いますね。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長 4社を比べて、表現や記述が難しいかという、1学年2学年でこのくらいはどの会社のものも読むべきだろうと思います。ただ、生徒によっては、用語の意味とか語句の意味がわからないところは当然発生してくると思いますので、その部分については、授業担当者が自分の担当しているクラスの様子を見ながら、補足説明をしていく必要はあるのかなと思っています。したがって、4社でとりたててこの教科書を使ったら難し過ぎて子どもは理解できないというふうには、委員会としては感じておりません。

小田原委員長 穴埋めかその説明を求める問題がついていた方がいいのかという話なのだけれども、各社が単元ごとに、学習のはじめに課題なり、何とかを考えてみましょうみたいな提示があって、そのページの最後というか単元の終わりのところで調べてみようとか、考えてみようとかといって、そこで論理的な部分、あるいは主要的な部分の確認というのが求められている。あるのとないのとあるわけですが、そこをきちんと

押さえていくというか、余裕があってやっていけば、論理的な、あるいは論説的な思考を養っていくということになるのだけれども、実際はどうなのですか。ここまでできるのでしょうか。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長 この教科書を使って、最初の基本的事項を押さえる時間にどのくらい使えるかというところですね。その辺が、学校やクラスによって多少違いがあると思いますので、全部のクラスが同じように十分に使えますというふうには言い切れないと思います。ですから、自分が受け持ったクラスを見て、どこまでを発展課題、応用課題を深めていけるかというところは、残念ながら差は出ると思います。

小田原委員長 応用教材とか発展教材の部分がどううまくまとめているかというところが問われてくる。そこで難易度の高・中・低が生きてくるということでしょうかね。いかがですか。

和田委員 今度はちょっと御意見として伺いたいのですが、非常に教科書が丁寧になってきて、ナビとか、それからキャラクターが出てきて、授業を展開していきますよね。ところどころに出てきてヒントを与えたりとか、学習の内容を示していく。これを読んでいると、先生は要らないのではないかという。要するに、ここではこういうことを考えなさい、ここではこういうことを考えなさい。気がつかないところをみんな周りのキャラクターが教えてくれる学習のパターンが多くなってきていますよね。そうすると、教科書の使い方というのは、これだけ説明があると「まず、自分で勉強してみなさい」という話になってきて、先生自身がこの説明を授業の中で教科書を使ってやるときに、どんな発問をしたらいいのかとか、どういうことをここで考えさせようかというのが、何か完全に教科書に誘導されているというか、先生自身がナビされてしまっていて、「これについて考えなさい」という、そういう内容になってしまっているような気がするのですが、教科書はある意味よくできていると言えばできていることになるのですけれども、先生の主体性とか、この教科書を使ったときにそこまでいろんな授業の展開が示されているということについて、どのようにお考えですか。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長 個人的な意見でよろしいでしょうか。

私もこの教科書を見て、自分が以前教えていたときよりもはるかに丁寧で、逆に使いにくいという部分があります。昔、そういったことが書いていなかったときには、各

先生方が宝として持っているような話題であるとか、あるいは項目を出していける部分もあったのですが、多分どこの学校においても、どの教室においても同じことを学習させていこうというのがこのキャラクターであったりナビであったり、ヒントの部分なのかなというふうに思います。そういう部分では、どこで授業を受けても、どこでやっても、同じ項目を扱って授業が受けられるというふうには感じますが、社会科をさらに深めていくとか、あるいは考え方を多面的に、多角的にとらえて表現をしていくということに関しては、ちょっと時間が取れないのではないのかなというふうには感じております。

小田原委員長　　今のお話のように先生が要らなくなっているというふうにいえる一方で、教科書会社がそこまで丁寧になってきているということは、地理を教える先生の学力というか、力がやっぱり落ちてきているから、そこを補う先生が教科書にも必要になってきているという、そういうことはいえないのですか。

川口教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」副部長　　社会科の教員というのは、中学校の場合は地理も歴史も公民も教えるわけですがけれども、例えば自分が大学で専攻しているのは歴史である場合は、ある意味地理とか公民というのは専門外ということなのですけれども、中学校では三つ教えなくてはいけないという部分がありますので、そういう意味で教科書が丁寧であるということは、ありがたい部分もあるのだと思います。

小田原委員長　　その丁寧さは、中身の丁寧さではなくて、例えば先生がキャラクターとして出てきて、質問しているわけですよ。だから、そんなことは必要ない。昔も今もあるのかもしれませんが、先生たちが持っている指導書の部分が教科書に入り込んできているという、そういう現象だろうなと思うのですね。だから、教師としては私はレベルが落ちてきているのではないかなというふうには思いますよ。

ほかに何かございませんか。

水崎委員　　細かいところで教えていただきたいのですが、もし私が聞き漏らしていたらすみません。

観点5の総合所見のところ、日本に関してというところで、日本の地域を学ぶ視点、それぞれ地域が載っていると思うのですが、帝国書院だけがほかの3社と扱うのが違うのかなと思うのですが、視点が違うのかなと思うのですが、こちら辺は、委員会の中で話とかは、何か出ましたでしょうか。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長　　今の観点5の　　でよろしいでし

ようか。その日本の学習の視点という点のところなのですからけれども、各社工夫をしております、タイトルのところに直接的な言葉ではなく表現されているタイトルを使って、九州なら九州、近畿なら近畿を学習させるような表現にはなっています。その中で、先ほど教育長からも御指摘がありましたように、わかりやすくテーマを書いてある教科書と、漠然として書いてある、指摘しているところと、やはりちょっと差はあるかなというふうに感じています。ただ、それがあから子どもたちがわからないとか、教師が教え方がどうのということまではいかないかと思いますが、比べるならばそういうところをここに表現させていただいたところです。

水崎委員 私の聞き方が悪かったのですが、例えば帝国書院だと九州は自然環境ですね。あとの3社は環境問題となっていますよね。そして、中国、四国も帝国書院は他地域との結びつきで、ほかのところは人口。関東は帝国書院は人口で、ほかは他地域との結びつき。北海道は帝国書院は歴史ですけれども、ほかの3社は自然環境と、この違いがあるという、そこがどういう意見が出たかなということなのですからけれども。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長 そのことについては、事細かくは委員会では論議していないのですけれども、要するに九州で、例えば環境問題というところと自然環境というところが書いてあったり、あるいはほかのところでもテーマが人口であったり産業であったりという違いはありますけれども、それしか扱っていないかということではなくて、それはメインのテーマとしてはございますが、各社とも各地域については、いわゆる地理として学習すべき気候であるとか、人々の様子であるとか、あるいは産業の発展の様子であるとか、そのものについては網羅してございます。

小田原委員長 この視点とか課題というのは、どこかで何か示されて、教科書会社がそれを採用しているということなのではないでしょうか。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野）」部長 そのところはわかりませんが、多分各社が自分のところの特色を出そうという考え方でテーマをつけているのではないかというふうに感じております。

小田原委員長 そこで、その今のお話だと、そういうタイトルというかテーマというか視点というのか、そういうものがあっても、それだけではなくて、しかもその地方によって幾つかの県があるわけですから、ある県に当てはまってもある県には当てはまらない部分もあるということもあるわけですよね。だから、一つの視点であったということだろうと思いますけれども、ただ、今、水崎委員が質問していることは、違う部分

があったときに、その違いでもって教えにくさ、あるいは受けとめ方がずれていくという、そういう心配はないかということだろうと思うのですよ。その教科書によって違ってくるわけですからね。例えば、近畿地方の場合には歴史的視点がいいのか環境保全でいくのがあるのか、そういう話だろうと思うのですが、いかがですか。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長 その部分については、学習指導要領の中でとらえていると思いますので、各社のタイトルが違っていても多少扱う分量的には違っていても、扱わないところがあるというふうには思っておりません。

小田原委員長 九州がほとんどです、環境の場合には。近畿も環境というのは帝国書院が挙げているわけですが、そうすると、こじつけていくように感じられるところもあるわけですよ。そういう心配はあると思うので、扱いをどうするか、深く考えていかなければいけないのだろうとは思いますが、

ほかにいかがですか。

もう一つ、北海道から下がってくるのと九州から上がっていくのとの違いもあるのですよね。それはいかがですか。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長 そのことも委員会で話題にしたのですが、それによって授業展開が変わってしまうということはないので、別に九州からでも北海道からでも構わないのではないかと。ただ、今までがずっと九州からやっているんで、古い教員にとっては違和感がありますけれども、でも、別に内容が変わるわけではないので、それは構わないのではないかと結論でした。

小田原委員長 ほかにいかがでしょう。

世界の諸地域のところで、視点というか課題というか、そういうのが示されているのですけれども、この中身に入ったときに、その地域、国別でとらえているのと、人文地理的な項目でとらえているところと二つに分かれてくると思うのですが、これはどちらがどうだというようなことはいえるのですか。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長 今までの教科書に比べると、国を紹介して、国の様子がわかりやすくなっているという点では、新しい来年度から使う教科書に関しては記述が多くなっております。今、委員長からの御指摘がありました、例えばアジア州においても視点が幾つか違いますけれども、ただ、アジアのところでは割と食文化であるとか、農産物であるとか、あるいは新興国の発展してきた様子であるとか、あるいは一番多いのは中国に関する記述が多くなっています。表現の仕方は、

扱い方については各社多少の違いはありますけれども、それが大きくどこかの部分だけ表していて、こちらの部分は扱っていないというふうには感じておりません。

小田原委員長　　大まかに言うとそういうふうになるのだけれども、中国は大体のところが触れていますけれども、西アジアとか東南アジアとかというふうなとらえ方と、人口あるいは産業、自然ですかね、暮らしとかというふうにしてとらえているところというのは、場所ではなくて、会社が、教科書では分かれてくるのですけれども、その点ではどうなのですか。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長　　例えば、帝国書院のところが割と自然とか文化というのが視点として扱って出ているのですけれども、最初の導入の部分は割とそういう内容が多く表記されているのですけれども、では、先ほどお話をさせていただきました各国や地域の、例えばいわゆるメインである産業であるとか、状況であるとか、そういうものに関しては、この自然文化というのが視点の中に入っているけれども、それが載せていないということはありません。ただ、ほかに比べたら表記が少ないという部分はあるように思いました。

小田原委員長　　いかがですか。

もう一つ聞きたかったのですが、帝国書院を使っていて、八王子市が例に出てきているわけですが、これは私は調べようというような場合に切り札を出されてしまった。切り札も大きな切り札を2枚出されて、さらにそれに付随する数の小さい切り札も出されてきてしまっているわけですね。そうすると、子どもたちが調べよう、聞き取りをしようなんて言っても、もうされてしまっているわけですよ。これは理科でもそうなのだけれども、理科の実験結果が次のページに書かれてしまっているわけです。実験しなくても、その結果が出てきているわけです。それをプリントに実験の結果を書きましょうなんていっても、教科書を写している子どもも出てくるわけですから、それがこの帝国書院の場合には、されてしまっているわけですね。日本文教出版の例でいけば、愛知県小牧市の例に従って広島県三次市を調べてみましょうとなっていくわけですね。それが社会科の実際の調べてみよう、調査してみようという話になっていると思うのです。そうすると、帝国書院の八王子市例として実際に示されてしまっているというのは、かえってまずいということはないですか。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長　　委員会ではそのことについても話題になりまして、どうなのだろうかというところで、最初意見は二つありまして、結

局、今御指摘がありましたように、八王子市を載せてしまうと、逆に調べなくてもいいのではないかと。それから、ほかの地域を載せても、逆にその場所に実際に行けないので、深めようといっても現実性がなかなか難しいかなというふうなことも出ました。最終的にどうなのかというところでは、やはり八王子市を載せても、例えばこれは川口のところが載っていると思うのですけれども、八王子は広いですので、川口の近辺からはこういうような状態だけれども、では確かに八王子の歴史的なことは共通するわけですが、自分たちが住んでいる、例えば台町の地域はどうなのだろうかというような視点に持っていけば、一つ八王子市というテーマから少し外れますけれども、八王子市の中の台町あるいは八王子市の中のいわゆるニュータウンとか、そういうような調べ方はできるのではないかと感じ、割と身近なので、子どもたちが読んでいて「ここ、知っている」とか、「これは、こういうふうに調べればいいんだ」というふうにもつながるのではないかと委員会では話が出ました。

小田原委員長　ただ、今の話は小学校の話ではないですか。中学生の場合には、もっと八王子市全体をこれを例にしてとらえていきましょうという話だと思うのですよね。だから、そういう点でいくと、ここの切り札を出されてしまっている。こういう視点で調べてみましょうと二つ示されているわけですよ。そうすると、子どもたちがテーマを決めましょうというふうにいわれているわけだけれども、二つのテーマはもう出されてしまっているわけですよ。そういうのがいいのか悪いのかという、そういう話なのですけれども。八王子市を調べようとしたときに、教科書が例に出ているから、ほかの市のテーマを例に八王子市についてやってもいいというふうにはなってくるだろうと思いますけれども、そこら辺がやりにくくないのかという話なのだけれども、今のような話だと大体わかります。

ほかはいかがですか、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長　特にないようでございますので、社会科の地理的分野についての御報告は以上ということで終わりたいと思います。

小田原委員長　続いて社会科の地図に入りますけれども、同じく資料作成委員会の方から御報告を願います。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長　それでは、続きまして、社会科

の地図について説明をさせていただきます。

八王子市では社会科の地図につきまして、帝国書院を使用しております。地図では2社が今回挙がっております。お手元の資料の順番で説明をさせていただきたいと思しますので、東京書籍の方から説明をさせていただきます。

この地図帳は、「地図でスタート」というページを最初に設けて、この地図帳の特長を生かした使い方を説明しております。構成は2部形式で、1部は世界と日本の地図。2部は世界と日本の資料に分かれております。1部の世界では、世界の独立国194を示し、地球儀を使い、子午線、赤道、経線、緯線、またモルワイデ図法や正距方位図法等の図法も載せております。さらに、世界の地球環境や地形図、気候、100年前の世界、言語や宗教を見開き2ページを使って学習できるようになっております。日本編では、日本の地域区分や自然環境、人口、産業、貿易等の基本資料を示し、その後の地図の提示では、特色ある地区をクローズアップとし、自然環境、歴史的背景、産業、環境保全、環境問題保全、人口と都市、村落、生活と文化、地域という結びつけで表示してございます。2部では、世界・日本についての詳しい資料、補助資料を提示しております。最後の裏表紙では、日本の都道府県と食文化、その前の150ページのところでは全国の名産品や名称、お国自慢等が記載されてございます。

続きまして、帝国書院でございます。サイズはA4判より大きいサイズとなっております。本文4ページからの地図の使い方では、地図記号の説明や隣接ページの表示、そのページの縮尺、地名の探し方や歴史・文化・産業の調べ方の説明。また、「やってみよう」「トライ」という課題を盛り込み、主題から特徴を探す問いが設定されております。内容は、同じく2部構成になっております。最初は世界編、次に日本編となっております。世界編、日本編それぞれに地域に関する補助資料は、地図に隣接したページに示してございます。最後に資料図として日本の地形、気候、自然環境、エネルギー問題等が表示され、日本の工業、世界と日本の産業、水産業、交通、通信、生活文化等、世界とのかかわりや、あるいは日本国内の方言の分布や郷土料理が紹介されております。最後の裏表紙では、領土、領海、都道府県とともに、昔の国名などが紹介されております。

以上で説明を終わります。

小田原委員長 地図についての説明が終わりました。何か御質疑ございませんか。

和田委員 東京書籍の観点2構成及び分量のところ、世界の諸地域の配列に系統性がな

いと書かれていて、基本的には配列に系統性がなければいけないという考え方だと思うのですけれども、ちょっとその辺の説明をしていただきたい。

それから、日本全体を見渡せる地図がないというのがあるのですが、これについても見渡せる地図があるなしというのは、どういうふうにかかってくるのか。

それから、最後のところ、資料図が充実していないと書いてあるのだけれども、かなり載っていると思うのですけれども、どういう資料があとあればいいのですか。

今井教科別調査部会「社会（地理的分野・地図）」部長　　まず1点目の、この世界の諸地域の配列に系統性がないということなのですが、これは2社を比較して考えて表現したのですけれども、決してどこかの州が載っていないということではございません。アジアからオセアニアまで載っております。その中で、教科書の扱いとしては、日本に隣接する国から順番に表記しているか、あるいはそうではないかというところで系統性という形で表現させていただきました。

それから、日本全体を見渡せる地図のことなのですけれども、ちょうど見開きで、3ページで帝国書院の方は入っているのですが、東京書籍の方は日本全図が全体的に表現されているところがなくて、では何が関係あるかということ、やはり国土、領土・領海ということ子どもたちに示すには、例えば授業中掛け地図というのは使うのですが、でも実際にこういう地図帳の中で日本の領土はここからここまでだよということが示せれば、すごくわかりやすいかなと。北海道だけとか東北だけとか九州南西諸島だけというよりも、むしろ北海道、北方四島から南西諸島まですべて出ていて、取り扱える方がいいのかなと考えた次第でございます。

それから、最後の総合所見のところ、資料図が充実していないという、これは表現としては適切でなかったかもしれないのですが、委員会としてはこんなふうを考えました。この二つの地図帳の中で、あるところを開いていただきますと、地図とその地図に関連する資料が次に出てくるような構成と、その地図は地図だけであって、それに関連するような資料が後ろに表記してあるという、その差でこういうような表現をさせていただきました。以上でございます。

小田原委員長　　その資料の点ですけれども、例えば地理の教科書の方は終わってしまったのだけれども、雨温図が出てくる会社とそうでない会社があるという、その指摘があったのですが、雨温図は大学入試センターのセンター試験にも今取り上げられている、注目されている一つの視点なのだけれども、あれは雨温図が示されていない方が私はむしろ

ろいいだろうと。子どもたちに作業させてつくらせる方がおもしろいわけであって、そうすると今、資料集なんていうのは買わせているのですか。あるいは学校で用意しているのですかね。そこに世界あるいは日本の雨と気温のその資料があればいいのだけれども、そういう点が地図の資料にも載っているかどうか、もう一つの資料の観点になるだろうと思うのですが、その点では、東京書籍の方はそういう資料が少ないということは言えるかもしれませんね。

ほかにはどうですか、特にないようでございますので、社会科の地図についての報告は以上ということにしたいと思います。どうもお疲れさまでした。

小田原委員長 それでは、社会科の歴史的分野について、資料作成委員会から御報告願います。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 歴史的分野部長の由木中学校校長の渡辺でございます。よろしく願いいたします。

石上教科別調査部会「社会（歴史的分野）」副部長 同じく副部長を務めております中山中学校副校長の石上と申します。よろしく願いいたします。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 歴史的分野なのですけれども、教科書の数が多いでございますので、できれば観点1内容、観点2構成及び分量というように、各社の特徴を横並びで報告書の説明をさせていただければと思うのですけれども、委員の皆様、よろしいでしょうか。

それでは、最初に観点1の内容についてでございますけれども、東京書籍は、冒頭のところで歴史の調べ学習等を示して、小学校との連続性に配慮があるかと存じます。

教育出版については、同じく第1章のところで人物のカードづくりなどを示し、小学校との連続性にこれも配慮があるかと存じます。

清水書院ですけれども、特徴的なのは導入部分で、各時代の特色をとらえるためにキャッチコピーをつくらせたり、自分なりにお気に入りの年表をつくるということで興味・関心をひく工夫があるかと思えます。報告書の方に書かせていただいたのですけれども、本市の学力の実態への配慮ということで、深める歴史という資料があるのですけれども、その中で何点か内容が専門的でやや難解なものがあるという意見がございました。

帝国書院ですけれども、特徴的なのは、この会社が以前からタイムマシンを使い、タ

イムトラベルをしながら歴史を学ぶという設定で教科書がつくられ、大変に特徴的な部分だと考えます。

次に、日本文教出版ですけれども、各編、章の導入部分が見開き2ページでつくられていて、大変見やすい構成、写真、図版も豊富であろうと存じます。

次に、自由社ですけれども、序章のところで200字ミニ伝記や800字の人物伝記という、そういうページがありまして、小学校との連続性に配慮があるかと存じます。

育鵬社ですけれども、これも歴史人物Q&A、カードづくりなどを通して小学校との連続性に配慮しているかと思えます。読み物コラムが、読み物コラム14、人物コラムが5つあるのですけれども、多少細かかったり多いかという意見もございました。

観点2の内容及び分量について御説明させていただきます。東京書籍ですけれども、一つには章末に「この時代の特色をとらえよう」、「この時代の学習を振り返ってみなで考えよう」という、設定がございまして、基本の押さえも十分ではないかと。さらに、「私たち歴史探検隊」、「深めよう、歴史スキルアップ」、「歴史アクセス」などの設定を設けて、発見教材にも配慮が十分あるかというふうに存じます。

次に、教育出版ですけれども、本文の見開き2ページの右下のところに「トライ」という設定を設けて、基本的な事項の押さえが大変にわかりやすいということと、「読み解こう、歴史の旅」などを設けて発展教材に工夫があるかと存じます。報告書の方に一点書かせていただいたのですけれども、一つは本文の内容と資料と地図を結びつけるマークが赤、青とカラーでありまして、今どきの中学生にはこの方がわかりやすいとも思うのですが、ややその数が多く、大きいものですから、逆に本文としては見にくいのではないかという意見もございました。

清水書院ですけれども、各ページに用語の解説があり、大変に生徒も学びやすい配置であり、それぞれ「まとめてみよう、調べてみよう」というテーマ学習を設定して、発展学習にも配慮があるかと存じます。

帝国書院ですけれども、これも報告書の方に、資料が一般的なものが多いと書かせていただきました。あいまいな表現で申しわけございません。例として、奈良時代、平城京、天平文化を他の6社と比べてみますと、若干資料、写真等が少なく、小さかったりして、改善の工夫があるのではないかというふうに考えました。しかし、章末の「学習のまとめ」、「チェックトライ」とか「歴史に挑戦」、「歴史の舞台」などが充実しており、発展教材の配慮が十分あるかと存じます。

日本文教出版ですけれども、「歴史を掘り下げよう」「出かけよう、地域調べ」等で基本事項の押さえがあり、写真や図版が資料並みに充実しており、発展教材としても配慮があるかと存じます。

自由社ですけれども、章末に問答形式の解説、また用語解説があり、基本事項の押さえに配慮があるかと存じます。また、章末に「チャレンジしてみよう」という項目があり、発展的な設問にも配慮があるかと存じます。

育鵬社ですけれども、分量としては適切かと存じますが、基本的な事項は十分押さえられているのですけれども、内容を取り扱うところで多面的な視点に多少欠ける部分があるという意見もございました。

観点3表記及び表現についてでございます。東京書籍ですけれども、全体として写真が大きく鮮明で、地図も大きく見やすいのではないかと意見がございました。

教育出版のところには、写真、資料が少し見づらいということで、いちいち場所を申し上げても、委員の皆様は今、教科書がお手元にありませんので、その箇所は後ほどお時間があればまた見ていただきたいのですけれども、22ページの古墳の写真とか、39ページ平等院鳳凰堂の写真などが多少小さくて見づらいのではないかと意見がございました。

清水書院ですけれども、これも写真、資料が多少小さくて見づらいのではないかと。場所としては14ページのエジプトのピラミッドとか、15ページのインダス川のモヘンジョダロ遺跡等が小さ過ぎて、せっかくの資料なのですけれども、少し工夫が必要ではないかと意見もございました。

次に、帝国書院ですけれども、写真、資料が全体として青みが強いという印象がございました。場所としては36ページの東大寺の大仏の写真、また40ページの平等院鳳凰堂の写真、あと飛びますけれども56ページの相模湾の写真などが青みがちょっと濃くて、色合いが濃過ぎるのではないかと、見にくいのではないかと意見がございました。

日本文教出版ですけれども、写真等は見やすくてよろしいのですけれども、一つ見方として、ページを見開いて、左ページの端に常に年表を記してありまして、一つには生徒に常に何時代のどこということを印象づけられて、徹底できてよいという面と、逆に毎回毎回これが出てくるものですから、煩雑で少ししつこいのではないかと両方の意見がございました。

自由社の、一つは写真に不鮮明のところがあるのではないかとということで、場所

としては49ページ飛鳥寺の釈迦如来像、また54ページの石舞台古墳等、もう少し鮮明な、せっかく石舞台古墳も最近少なくなっておりますので、教えるためにはいいのですけれども、もう少し鮮明な写真が工夫できればという意見がございました。あと、報告書の方に本文と写真のレイアウトに工夫がほしいと記入してありますが、具体的には、日本列島の誕生と縄文文化というところで、自由社では日本人はどこから来たのかを26ページ、縄文文化の1万年というのを30ページ扱っているのですけれども、他6社を比較してみますと、例えば陸続きの日本列島の図であったりナウマン象の骨であったり、縄文時代の村の生活の様子等、資料を豊富に配置しているのですけれども、自由社の場合、従来どおりの本文があってその上に写真、地図が配置されてということで、もう少し写真、地図があるとさらによいのではないかという意見が出ました。あと、自由社のところでもう一つありましたのは、レイアウトのところで、ページに余白部分が多いのではないかということで、ちょっとわかりにくい言い方なのですけれども、例えば55ページであったり、161ページであったり、本文の横の説明のところでも明らかに空白という部分があって、せっかくの構成ですので、この部分に何か資料とか写真とか説明なりが入るとさらに充実してよいのではないかという意見も出ました。

あと、育鵬社ですけれども、写真、資料に鮮明ではなく小さいものが少しあるかという意見が出まして、例えば21ページの貝塚の写真は少し小さくて、貝塚なのかどうかのかわかりにくいという意見。あと、30ページの高句麗の石碑のところも、碑としてはわかるのですけれども、少し不鮮明ではないかという意見、あと43ページの今に残る律令時代の区画ということで、大変に興味深い資料なのですけれども、小さくてわかりにくいのではないかという意見がございました。

観点4使用上の便宜ということで4項目調査させていただきました。東京書籍の報告書のところで、各章のはじめに章を概観させるページがありますが、わかりやすいとは言えないという、少しこれもぼやけた表現なのですけれども、例えば18ページ19ページを見ていただきますと、一つ散歩コースのような形で道が記されて、そこにさまざまな資料があるのですけれども、意図としては、資料からその時代の関連とか流れを考えさせるという意図は十分わかるのですけれども、初めて見た生徒がこのページを開いたときに、このページのねらいとかそういったものがはっきりしないのではないかという意見がございました。

あと、教育出版ですけれども、章のはじめに年表を配したり、章末に学習のまとめ等

があり、全体を見渡せる内容で、さらに設定として人物から世界の歴史から地域からということで、歴史を探ろうと、課題発見、解決の学習に配慮があるという意見がございました。

あと、清水書院ですけれども、これも報告書のところに、各章のまとめのところで社会や人々の暮らし、文化、世界という項目に分けてまとめるという構成になっているのですけれども、指示が、気づいたことを整理しようというだけで、表現としては見にくいということを書かせていただきました。これは例えばですけれども、何をきっかけに人々の生活が変わったのかとか、文化に大きな影響を与えたことはどういうことなのかとか、世界の出来事で日本の社会に影響を与えたものはどういうことなのかというような、少し発展的な設問をここに加えるとかという工夫が少しあればというふうに考えました。あと、少し意見を交わしたところとしては、地域性への配慮が関連資料には少ないというふうにしたのですけれども、138ページに「深める歴史」でフィールドワークの進め方を丁寧に説明してありますので、そういった点の配慮はあるかと考えました。

あと帝国書院ですけれども、特徴的なのは「歴史に挑戦」ということが6項目あるのですけれども、その中で挑戦状という書き方で問題提起をして、生徒に情報をもとにその出来事を推理、考察させることで、課題発見、解決の学習に配慮があるかと存じます。

あと、日本文教出版ですけれども、各章のまとめ、学習の活用「とらえよう」というような中で、各章の振り返りや全体を見渡せる構成になっているかと存じます。

自由社ですけれども、目次のところに工夫があり、これも特徴的なのですけれども、すべての章、節の中の項目を、すべて通し番号で表しておりまして、普通は章で1項目から例えば10項目で終わって、章、節が変わると、またそれも変わるのですけれども、すべてを通し番号でやっておりますので、このあたりは生徒には自分がどのあたりを勉強しているかというのが、わかりやすいのではないかという印象もあります。

育鵬社のところでも、読み物教材が多くて、課題、解決的な視点が多少少ないという印象があるのですが、課題学習という設定が5項目あり、そのテーマの設定とか進め方は、生徒の興味・関心をひく内容になっておりますので、この内容がもう少し多ければいいという意見がございました。あと、地域性への配慮は少ないです。そこにはないというふうに書かせていただいたのですけれども、少ないですけれども、248ページに地域の歴史を考える新聞づくりという項目がありまして、その中で地域調べと

いう視点を明確に示して、配慮があるかと存じます。

観点5の総合所見のところなのですけれども、この総合所見の4項目につきましては、今回の学習指導要領の改訂に伴う改善の具体的な事項として、四つ特徴的なものを盛りさせていただきました。一つが、社会的な事情に関心を持って、多面的、多角的に考察できるようにする。2番目が身近な地域の歴史学習などから伝統や文化を学習していく。3番目が我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いを充実させ、その中で宗教の起こりを学習させる。4番目のところが、学習した内容を活用し、その時代を体感し、表現する活動を取り入れるということを総合所見の4観点に盛りさせていただきました。

東京書籍なのですけれども、一つは章末の「この時代の特色をとらえよう」の中で、多くの学習活動を紹介し、体感させる授業の提案があるかと存じます。

教育出版については、これも各章末の学習のまとめと表現、あと折り込みの年表等で歴史を体感させる試みがあるかと存じます。

あと、清水書院なのですけれども、ここでは文化を扱う資料が少ないという表現をさせていただいたのですけれども、伝統や文化を扱う資料が多少少なく、別に資料集などが必要な程度ではないかなという意見が出ましたが、138ページのところでフィールドワークの手法も取り入れておりますので、地域の伝統文化を深める、そういう配慮はあるかと存じます。

帝国書院ですけれども、ここは章末の学習のまとめで資料を活用して、その時代の大きな流れを説明させる資料活用型の体感授業を提案し、配慮があるという意見がございました。日本文教出版については、これも章末の学習の活用や巻末の年表が充実し、その時代の特色を体感させる資料が適切ではないかという意見がございました。

自由社ですけれども、戦争や対立を扱う場面で表現に特徴が見られます。特に237ページから240ページは特徴的な部分かと存じます。

育鵬社ですけれども、時空を多面的、多角的にとらえる視点が多少弱いかという意見もございました。

以上で説明を終わらせていただきます。

小田原委員長 資料作成委員会からの報告、説明が終わりました。

何か御質疑がございましたら、お願いします。

水崎委員 内容ではないのですけれども、今、東京書籍を使っていると思うのですけれども、今回東京書籍は教科書の大きさが大きくなったと思うのです。国語のときもそうい

う話が教育長の方からも質問があったと思うのですけれども、机の大きさというのは変わってなくて、教科書が大きくなるということについて、もちろん見やすくなったり、本文にしても写真なんかにしても、取り上げる量もふやすことができるのかもしれないのですけれども、実際子どもたちが授業で使うときに、机の広さに対してこの教科書の大きさというのはどうなのかなというのは、皆さんの中で意見等は出ましたでしょうか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 冒頭に現在使っている教科書の説明がなくて申しわけございませんでした。

東京書籍なののですけれども、委員会の意見としては確かに出ました。今の御指摘のように、机の大きさなど大学ノートを広げたときに、この教科書の大きさは、ちょっと個人的な意見なののですけれども、多少大きいかなと。本当に一回り大きいだけなののですけれども、少し大きいかなという印象は受けます。

小田原委員長 そのほか、いかがですか。

和田委員 先ほど、説明が足りなかったのですけれども、自由社の観点5の(1)のところの表現に特徴が見られるというところだけで終わったのですけれども、具体的にどういう表現なのかということと、委員会としてはそれをどういうふうにとめているのか、その辺の見解をお願いします。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 具体的には、237から240ページのあたりを見ていただければと思うのですけれども、この部分と関連して、例えば東アジア諸国と日本の関係とか、終戦のところの表現で、多面的、多角的な視点というのがもう少しあった方がいいのではないかという意見が委員会では出ました。私も、各社、東アジアと日本、終戦のところは、委員とともに限定的にその部分を7社の表現全文をそれぞれまとめて比較いたしました。それで、例えば日本の東アジアでの行動について、さまざまな現地の受け取り方があるということで、その受け取り方を資料であったり写真集であったりと取り上げている社が多いのですけれども、それがもう少し工夫があった方がいいのではないかという意見がございました。

和田委員 やはり、そのとらえ方が多様性に欠けていて、もう少しさまざまな観点からこの歴史的事実を理解した方がいいと解釈するような、そういう教科書にした方がいいという、そういう見解ですか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 そのとおりでございます。

小田原委員長 よくわからない部分もあるのだけれども、多面的、多樣的というのは、資

料とか写真を載せるということなのですか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長　例えば、文言で申しますと、自由社の表現の中で、当時の日本軍の東アジアでの行動を、「現地の人に希望と勇気を与えた」という表現が見られるのですけれども、発達段階を過ぎた大学生、大人であれば、自分でさまざまな考察、経験から、そういうことも一面として理解できるかもしれないのですけれども、初めて本格的に歴史を習う中学生に学ばせるためには、歴史の客観的な事実とともに、こういったことを伝えることがいいのではないかというふうな意見が出ました。

小田原委員長　歴史的事実ということが、そういう表現になっているというふうにはいえないのですか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長　内容に少し踏み込むようになるかもしれないですけれども、当時の日本の東アジアでのさまざまな政策が、欧米諸国の庶民政権を断ち切る、それで現地の人たちの自立への動きを加速させたという、そういう一面はあるかもしれないのですけれども、その中で当時の日本がどのようなことを現地でしたのかということ、端面ではなくて多面的にやはりとらえさせる、考えさせていくということ、着実に教科書の中で教えるということは大変大切なことなのかなというふうにして、いろいろ議論を出しました。

小田原委員長　ということでございますが、いかがですか。ほかに何かございますか。

和田委員　今度の学習指導要領の中で、見通しを持った学習と振り返りをできるような学習を配慮しなさいということになっていて、この歴史などもその部分部分を勉強するだけではなくて、それを一連の歴史事項としてとらえていくという全体の内容をまず把握するということと、学習し終わった後にそれらを振り返って、もう一度どういうことだったのかということ、きちっと両方の面を押さえていかないと、この学習というのがきちっとした、充実したものにならないという、そういうとらえ方をしていると思うのですね。当然、この歴史の中でも同じようなことを、そういうことを配慮しながら行っていると思うのですが、そういう点でいうと、例えば観点2の構成及び分量のところ、どの会社も最初に全体像を見せて、そして最後にまとめをするという、もちろん当然そういう形になっていくのですが、そういう面で、こういうまとめ方がいいなとか、振り返りの仕方がいいなとか、もしこういう教科書会社によってさまざまな取り組みがある中で、歴史の勉強をした後に振り返るときに、こんな学習であればいいのではないかと

というような、そんな御意見はありますか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長　今の御指摘なのですけれども、その点については7社とも大変に工夫、配慮があるかなというふうに思いました。歴史と申しますと、中学生は覚えることばかりで丸暗記で、覚えれば試験にできるのかという印象で、嫌いになる科目の要素なのですけれども、今回の改訂も踏まえて、ただ覚えるだけではなくて時代全体がどういう時代だったのかとか、その時代前後の時代との関連性とか、そのことに対して世界からどういう影響があったのかというようなことを、例えば、先ほど少し申し上げさせていただいたのですけれども、各ページに「トライ」とか、「ここがポイント」というようなことで、少し振り返りをさせたり、それぞれの会社で名称はいろいろあるのですけれども、「歴史にアクセス」とか「トライ・アンド・チェック」とかいろいろありまして、振り返りでまとめというのを本当に工夫して、先ほども少し後ろで聞いていて、これでは教員も必要ではないのではないかという御意見もあったのですけれども、本当につくりとしては大変丁寧な、わかりやすい教科書になっているかと思えます。

小田原委員長　今のことに関連すると、それが先ほどの多面的、多様性ということにもなるかもしれませんが、そういう見通しと振り返りだけではなくて、子どもたちが多面的、多角的に歴史的事象を確認していくということは、説明するとか、あるいは発表するとか、意見を交換するとか、そういう言語的な活動が一つ大きな要素になってくると思うのです。そういう言語的な活動というのは、これは国語だけではなくて、すべての教科活動でやらなければいけないというふうになっているわけなのだけれども、その点でその言語的活動というのは、教科書によって大きな開きがあるかと思えます。その点については、どういうふうにとらえていますか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長　一つは考える力であったり判断力とか、そういったものを充実させるための言語活動の充実ということで、そういった考察すること、あと、まとめて話し合うこと、発表することを、一つのコーナーとしてきちんと設けている教科書もあれば、漠然と「まとめてみよう、発表してみよう」というような教科書もあって、今、委員長からもありましたように、その点の言語活動の充実ということでは、各社に多少の開きがあるかと存じます。

小田原委員長　10分の1まではいかないけれども、9分の1である、そういう開きが出ているのですよ。そのくらいの開きが出ているわけなのだけれども、それをどういふ

うにとらえるかという数え方の問題もあるかもしれませんが、そういう点では委員会として何か見解というか考えは出なかったですか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 現物のそういった開きなどというところまでは意見としては特にございませんでした。

小田原委員長 ほかにはいかがですか。

和田委員 今の都教委の資料の中に、言語活動を取り上げている箇所という数字が挙がっていて、それがやはり自由社や育鵬社が非常に少ない、極端に少ないのですよね。ですから、そういうものを理解したものを自分の言葉で表現したりとかという、あるいは考えたりするという、そういう箇所が他社に比べ今のお話のように非常に少ない。逆に言うと、教育出版が他社に比べてだんとつに多いという、そういうようなことになっているわけですよね。それと合わせて、もう一つ自由社と育鵬社は、登場する歴史上の人物の数が他社に比べて非常に多いのですよね。100レベルで多い、あるいは200ぐらい多いという状況になるのですけれども、そういう歴史上に出てくる人物をたくさん扱うということは、それは教える側としてはどうなのですか。しっかり勉強しなければいけない部分も出てくるのでしょうか。そういう数が多いというのは、特に気にならないことですか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 これも委員会の中で、例えばある時代をとらえて、その時代に登場する歴史的な人物の数とか内容を比較することもいたしました。それで、今、御意見がありましたような2社で取り上げられている人物は、他社では取り上げない人物もかなり多く紹介されているのですけれども、それはどう取り上げるかということにもなると思うのですけれども、多少取り上げにくかったり、他社では今まで取り上げていないような人が初めて登場するということもありますので、それは工夫が別に必要かなというふうには思います。

小田原委員長 そのほか、いかがですか。

例えば歴史的実行というか事象、あるいは用語とでもいいですが、そういう部分で、教科書によって違いがあるわけなのだけれども、そういうことは歴史観の違いということにもなっていくのかもしれませんが、教える場合に、用語が違って来た場合に、教えにくいとか困るとかというようなことというのがあるのですか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 用語の違いで教えにくいということは、これは新指導要領に載っていることを基本的に押さえながらやっていくわけですので、

用語の違い、言い方の違いで教えにくいということはないかとは思いますが。

小田原委員長 CとDといった場合に、A社ではCと言っているけれども、B社ではDと言っていますよと、そういうふうにして問題はないということなのですか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 以前ですと載っている部分が載っていませんかったり、ある会社では取り上げられていることが載っていないということですか。

小田原委員長 そういうことではなくて、同じ事柄を別の用語で言っているというようなことがある場合にどうなのですか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 それは一般的という言葉は少し適切ではないかもしれないのですけれども、一般的に通っている用語を使って、教員の方は説明すると思います。

小田原委員長 だから、一般的というのは何かということになるわけなのだけれども。従来、一般的というふうにいわれていたことが、まずいのではないかということでは言いかえられてきているとすれば、どうなのですか。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 そういう工夫、配慮のもとで言いかえがあるのであれば、それに基づいて授業が行われていくかと思えます。

小田原委員長 例えば、享保の改革というより、水野忠邦の改革の方を取り上げた方がいいのかな。水野忠邦の改革が近世の話になるのか、幕末以降の近代の話になるのかという違いは、これはまた切り方の問題としてどちらというのはそれほど問題にならないかもしれませんよね。だけれども、事項の呼び方が違って来たという場合にいかがですかということなのですよ。

渡辺教科別調査部会「社会（歴史的分野）」部長 やはり、生徒の学び方としては、影響が出るかと存じます。

小田原委員長 そのほか、いかがですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 では、特にないようでございますので、社会科の歴史的分野についての報告説明は以上ということで終わりたいと思います。

小田原委員長 それでは、もう一点、社会科の公民的分野についての報告に入りたいと思います。公民的分野につきまして、資料作成委員会からの御報告をお願いします。

市村教科別調査部会「社会（公民的分野）」部長 社会科公民的分野の部長をさせていた

だいております四谷中学校長の市村でございます。よろしくお願いいたします。

井上教科別調査部会「社会（公民的分野）」副部長 副部長を務めております榎原中学校副校長の井上です。よろしくお願いいたします。

市村教科別調査部会「社会（公民的分野）」部長 それでは、ただいまから社会科（公民的分野）の調査報告をさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします。

現在、本市では、帝国書院の教科書を使用しておりますが、今回社会科公民的分野資料作成調査部会では、7社の教科書について調査をさせていただきました。説明の順番としては、各調査項目の順に御報告をさせていただきますと存じます。よろしくお願いいたします。

まず最初に、観点1内容につきましては、発達段階に即しているか。興味・関心を引き出す配慮という点を中心に各社を調査いたしました。

まず、東京書籍ですが、イラストや写真、図などの学習内容に即した資料も多く掲載されており、特に写真、図については比較的大きなサイズが多く見られました。また、各社とも大項目ごとにシンボルカラーを設けているのですが、東京書籍の場合には、各ページの上部に資料が必ず配置されているわけなのですが、その資料をシンボルカラー、例えばシンボルカラーがピンクだったらピンクということなのですが、緑だったら緑ということなのですが、そのシンボルカラーで彩るなど色使いも豊富で、視覚的に訴える工夫がされていました。また、1単位時間の導入部では、学習課題を提示するほかに、キャラクターによる吹き出しを使って資料、図だったり写真だったりということなのですが、その読み取りの視点を示すことでより生徒の興味・関心を引き出せるようになっていました。

次に教育出版ですが、教育出版につきましても、イラストや写真、図などの学習内容に即した資料が多く掲載されておりました。色使いも豊富で視覚的に訴える工夫がされていました。また、東京書籍と同様に、1単位時間の導入部では学習課題を提示するほか、キャラクターによる吹き出しを使って資料読み取りの視点を示し、より生徒の興味・関心を引き出せるように配慮をしておりました。

清水書院については、色使いはやや抑え目なのですが、イラストや写真、図などの学習内容に即した資料も比較的多く使われていて、視覚的に訴える工夫はなされています。また、1単位時間の導入部では、課題を提示して、生徒の興味・関心を引き出せるような配慮もされていました。ただ、資料を読み取る際の視点については、特に提示はされ

ていませんでした。

帝国書院については、清水書院と同様に色使いはやや抑え目なのですが、イラストや写真、図など、学習内容に即した資料が多く使われていて、視覚的に訴える工夫がされていきました。また、1単位時間の導入部でも、学習課題を提示して、生徒の興味・関心を引き出す配慮もされています。さらに、ごく一部でキャラクターによる吹き出しも見られますが、クエスチョンマークというマークを使って、資料を読み取りの視点を示し、生徒の興味・関心を引き出せるような工夫がされていきました。

日本文教出版につきましては、東京書籍や教育出版と同様、イラストや写真、図などの学習内容に即した資料が比較的多く使われていて、色使いも豊富で、視覚に訴える工夫がされていきました。また、1単位時間の導入部でも、学習課題を提示するほかに、キャラクターによる吹き出しものを使って、資料読み取りの視点を示して、生徒の興味・関心を引き出せるような配慮がされていきました。

自由社につきましては、イラストや写真、図などの学習内容に即した資料や色使いについてはやや抑え目になっていました。また、1単位時間の導入部においては、学習課題を提示し、生徒の興味・関心を引き出せるような配慮はされておりました。ただ、資料等の読み取りの視点については、提示がされていませんでした。

最後に育鵬社についてですが、育鵬社につきましてもイラストや写真、図などの資料が提示されていて、また色使いについては東京書籍と同様に、各ページの上に配置されている資料をシンボルカラーで彩って、豊富で視覚的に訴える工夫がされています。また、1単位時間の導入部では、学習課題を提示するほか、くまのキャラクターによる吹き出しを使って、資料の読み取りの視点を示すような配慮がされておりました。八王子市の学力実態の配慮については、各社とも特筆すべき点は見られませんでした。

次に観点2構成及び分量についてですが、はじめに内容の組織配列についてお話をさせていただきます。学習指導要領における公民的分野の構成については、四つの大項目で構成をされております。現在、発行されている教科書の内容構成については、政治学習を先にするのか、経済学習を先にするのかにおいて、各社の分かれるところがありましたけれども、平成24年度から使用される教科書については、各社とも政治、経済の順に配列されています。したがって、生徒たちは現代社会、憲法及び人権、政治、経済、国際社会の課題という順に学習する配列になっております。また、分量についても、各社若干の差はありますが、ページ的に言うと約200ページ前後で構成されてお

り、内容的にも適量であると委員会としては考えております。

続いて、基本事項の押さえと補充教材について御説明をさせていただきます。基本事項の押さえとして、大項目ごとの学習のまとめについて調査をいたしました。大項目ごとに学習のまとめを提示しているのが、東京書籍、教育出版、自由社、育鵬社の4社でした。また、もう少し細かく中項目ごとに学習のまとめを提示しているのが、帝国書院、日本文教出版の2社でした。清水書院については、大項目、中項目ごとの学習のまとめについては、特に設けられていませんでした。

内容的な特色としましては、東京書籍と日本文教出版については、思考力、判断力、表現力の育成にやや重きを置いた内容となっており、重要事項の確認とで構成されておりました。また、日本文教出版については、中項目ごとに先ほどお話ししましたけれども、学習のまとめを設けているというのが特徴的でした。教育出版と帝国書院につきましては、資料を用いて重要事項のまとめを中心に構成されており、思考力、判断力、表現力の育成についても、適量ではないかと思われます。また、日本文教出版と同様に、中項目ごとに学習のまとめを設けている点が特徴的でした。自由社につきましては、重要事項のまとめと思考力、判断力、表現力を養う内容にはなっておりますが、出題形式、回答方式とも文章中心の構成となっております。育鵬社は、重要事項のまとめと思考力、判断力、表現力を養う内容になっておりますけれども、重要事項の確認についてはチェック形式というスタイルをとっております。そのほか、1単位時間の基本事項の押さえとして、東京書籍については机のマーク、教育出版については「トライ」という表現で、帝国書院についても「チェック・アンド・トライ」という表現。日本文教出版は「学習課題を確かめよう」と、自由社は「ここがポイント」という、それぞれ項目を設けておりました。清水書院と育鵬社については、1単位時間ごとの基本事項を押さえるような学習課題は特に設定されていませんでした。

補充教材に移らせていただきます。補充教材につきましては、憲法及び法令集については各社とも設けておりました。ただ、現代史年表は自由社が、用語集については清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社が設けてはいませんでした。ただ、用語の説明については、7社とも各1単位時間の单元の中で、さまざまな形によって説明はしていました。また、各社とも巻頭及び巻末等を利用して、各社の方針に基づいた写真等を掲載しておりました。

次に発展的記述、発展教材の配慮についてですが、学習指導要領に示された内容より

高度な内容を発展的と定義するところを理解しているわけなのですが、その判断は非常に難しいと今回の調査をして改めて感じております。書いてある内容だけでとらえるのであれば、比較的判断もしやすいのですが、言語活動をはじめ、さまざま学習活動も折り込まれている新しい教科書では、例えばそれは言語活動の充実を図るための課題なのか、それ以上の高度な内容を含んでしまっているのか、判断に迷うところが多くありました。基本的には、各社ともにそれぞれ特設ページ、またはコラムを設けていますので、今回はそれを判断基準とさせていただきます。

東京書籍では、「深めよう」とか「公民チャレンジ」という特設ページやコラムで発展的記述や発展教材への配慮がされていました。教育出版につきましては、「さらに深めよう」また「読んで深く考えよう」「読み物資料」というような特設ページで対応しております。清水書院につきましては、「公民ファイル」という特設ページの中で対応しておりました。帝国書院につきましては、「ステップアップ」とか「資料」、「今を見る」というコラムがあるのですが、そのコラムの一部で対応しております。日本文教出版につきましては、「ズームイン」とか「チャレンジ公民」「公民プラスアルファ」という表現を使った特設ページやコラムで対応しております。自由社につきましては、「もっと知りたい」、育鵬社につきましては「考えよう」または「理解を深めよう」という表現をとっていますが、そういう特設ページやコラムでそれぞれ発展的記述や発展教材への対応しております。

観点3表記及び表現についてですが、清水書院以外の6社につきましては、すべて「です」「ます」調の表記となっております。清水書院につきましては、「である」調の表記となっておりますが、読みやすい表現という観点においては、各社とも平易な表現を取り入れておりますので、生徒にとっては読みやすい内容となっていると考えております。また、印刷や写真等の見やすさについても、各社とも鮮明で見やすくつくられています。清水書院については文字のポイントが他社に比べて若干大きくつくられています。また、自由社につきましては、写真や資料が若干コンパクトな扱いになっているかなというふうに思っております。

観点4使用上の便宜についてですが、(1)の全体構成が見渡せる配慮については、各社とも1単位時間の学習内容が見渡せるように見開き2ページで、1単位時間をまとめるように構成をされています。清水書院以外は、1ページ目の上部に導入資料を提示して、2ページ目の上部及び両サイドに本文を補う資料として写真や資料等を配置して

おります。清水書院につきましては、他社のような紙面構成も多く見られるのですが、必ずしも統一された紙面構成にはこだわっておりませんでした。また、清水書院と自由社の両サイドの補足資料の扱いについては、写真や図よりも語句による説明が多く見られたという意見が委員会の中から出ております。

また、大項目ごとの全体構成についてですが、東京書籍につきましては、大項目のはじめに学習の導入として、見開き2ページを使って学習課題が設けられております。非常に特徴的なところでした。また、終わりには、その大項目の学習のまとめとして、ディベートだったりプレゼンだったりするのですが、学習課題が設定されております。教育出版につきましては、先ほどの発展的教材等と重複する部分も一部ありますが、大項目の終わりに学習のまとめとして学習課題が設定されておりました。帝国書院につきましても、先ほどの教育出版と同様に、発展的教材とダブる部分が一部ありますが、大項目の終わりに学習のまとめとして討論だったり、模擬選挙であったりというような学習課題が設定されておりました。日本文教出版につきましては、東京書籍と非常に似た構成になっています。大項目の初めには、それぞれの大項目の学習の導入として見開き2ページを使って学習課題が設定され、終わりには学習のまとめということでディベートや討論などの学習課題が設定をされておりました。清水書院、自由社、育鵬社につきましては、ディベートやプレゼンテーションなどの学習課題は設けられておりますけれども、前にお話しした学習のまとめ、清水書院はそれはないのですが、学習のまとめ以外には大項目のまとめとして課題を与えるような学習課題を特に設定をされておりました。ただ、育鵬社につきましては五つ大項目があるのですが、その五つ中三つにつきましては学習課題が設定をされております。ただ、その学習課題につきましては、発展的教材と一部ダブるという形にはなっております。したがって、大項目ごとの全体構成という視点で見ると、東京書籍と日本文教出版の方に特色が見られたかなというふうに、委員会の中ではまとめております。

(2)の課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮についてですが、各社ともに先ほど発展的記述や発展的教材のところの説明をさせていただいた特設ページを中心に対応をしておりました。1単位時間という視点で見ますと、東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版の5社については、ほぼ1単位時間ごとに課題が設定されていますが、自由社と育鵬社につきましては、1単位時間についての課題設定という視点で見ますと、提示はされておりました。印刷装丁への配慮に

つきましては、各社とも特になく、また地域性への配慮についても特筆すべき点は見られませんでした。

最後に観点5 総合所見、重点調査項目についてです。公民部会としては、学習指導要領の改訂を踏まえて、今回4項目を取り上げて調査をすることといたしました。重点項目の1点目は、言語活動に対する取り扱いという観点を設定して調査をいたしました。言語活動に対する取り扱いについては、全社が言語活動に関する特設ページを設定していました。特に東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版の4社については、多様な学習活動、討論であったり、ディベートであったり、プレゼンテーションであったりと、模擬裁判であったりとそういう意味なのですが、そういうものが取り入れられている点が特徴的でした。東京書籍については、ディベートと模擬裁判、プレゼンテーション、最終章ではレポート作成を課しておりました。教育出版につきましては、討論、ディベート、模擬裁判、プレゼンテーションと最終章でレポート作成を提示しておりました。特に日本文教出版については、ディベート、模擬裁判、最終章でディベートとレポート作成を課す以外に、ブレインストーミング、ロジックツリー、企画書の作成など、多様な学習形態の提案をしておりました。また、帝国書院につきましても、ロールプレイ、意見カードを用いた討論、模擬選挙、企画書の作成、最終章でレポート作成が提示されていて、ほかの社とはやや異なる視点、意見カードを用いた討論、ロールプレイというところなのですが、そういう視点から言語活動にかかわる活動が示されていました。清水書院につきましては、最終章でレポート作成について提示していました。自由社についても、最終章で討論とレポート作成について提示していました。育鵬社につきましては、ディベート、プレゼンテーション、最終章でのレポート作成について提示をされていました。

次に、1単位時間ごとの言語活動に対する取り扱いなのですが、東京書籍、教育出版の2社については、1単位時間ごとに言語活動に対する課題が設定されていました。また、「調べよう」とか「考えてみよう」という問いかけを含めて考えれば、帝国書院、日本文教出版の2社についても、ほぼ1単位時間ごとに言語活動に関する課題が設定されています。清水書院につきましては、大項目「私たちと現代社会」一番最初の学習活動をする場面なのですが、そこで言語活動に関する課題は全く設定されておりませんでしたけれども、その他の大項目につきましては、言語活動に関する課題が設定されていました。自由社と育鵬社につきましては、1単位時間ごとの言語活動に関する課題は

設定されておりませんでした。

次に、重点項目の2点目として、文化の意義や影響への理解。我が国の伝統文化への関心について調査いたしました。東京書籍につきましては、全8ページで取り扱ってありました。文化の意義や影響への理解については、文章表現よりも、写真を多用して科学、芸術、宗教について取り上げ、社会生活のかかわりについてつなげています。我が国の伝統文化への関心についても、文章表現よりも写真を多用して学習させる内容となっていました。題材としては年中行事、茶の湯の俳句の季語を取り上げています。

教育出版は全6ページで取り扱ってありました。文化の意義や影響への理解については、やや科学に重きを置きながら、芸術、宗教について取り扱い、社会生活のかかわりについてつなげています。我が国の伝統文化への関心につきましては、年中行事や茶の湯、伝統工芸を題材に学習させる内容となっております。

清水書院につきましては、全2ページで取り扱ってあります。文化の意義や影響への理解につきましては、文章を中心に科学、芸術、宗教について簡潔に取り扱い、社会生活とのかかわりにつなげていました。我が国の伝統文化への関心につきましても、文章を中心に簡潔に取り上げてあります。したがって、2ページとしては文章量は若干多目となっております。

帝国書院につきましては、全6ページで取り扱ってありました。文化の意義や影響への理解につきましては、同じように科学、芸術、宗教について取り扱い、社会生活とのかかわりについてつなげています。宗教につきましては、写真を使って3大宗教を取り上げ、また我が国の伝統文化への関心につきましては、年中行事を題材に学習する内容となっております。日本文教出版につきましては、写真による特設ページ2ページを含めて、全6ページで取り扱ってあります。

文化の意義や影響への理解につきましては、写真による特設ページの2ページで科学、芸術、宗教について取り扱い、社会生活とのかかわりについてつなげているという、そういう配置となっております。

自由社につきましては、全2ページで取り扱ってあります。ただし、前のページで文化の意義等にも触れてあります。我が国の伝統文化への関心につきましては、日本人の思考行動様式を題材に扱ってありました。また、科学、芸術、宗教、それぞれ各2ページ、計6ページになりますが、特設ページを設定して学習を深められるような構成になってありました。また、表紙の裏には、写真を使用した日本の先端技術に関する資料も

掲載されております。

育鵬社は写真による特設ページが2ページ、それを含めて全8ページで取り扱っております。文化の意義や影響への理解につきましては、科学に重きを置きながら、芸術、宗教について取り扱って、社会生活とのかかわりについてつなげていくような構成になっておりました。我が国の伝統文化への関心につきましては、豊富な写真で構成された伝統文化に関する特設ページ、2ページを設けて、学習できる内容となっております。また、表紙の裏には、写真を使用した文化や日本の先端技術に関する資料も掲載をされておりました。

次に、重点項目の3点目ということで、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習の重視。「対立と合意」「効率と公正」ということなのですが、その取り扱いについて調査をしました。特に「対立と合意」「効率と公正」を学ばせるに当たり、どのような具体的な事例を題材としているか。また、公民学習の中でどのように活用が図られているのかについて、調査をいたしました。

東京書籍につきましては、全8ページで取り扱っております。「対立と合意」「効率と公正」につきましては、学校でのトラブル及び自治会でのトラブルを事例に学習するようになっております。また、公民学習の中での活用につきましては、各大項目における学習のまとめで5カ所活用されております。

教育出版は全6ページで取り扱っておりました。「対立と合意」「効率と公正」については、派遣労働者及び障害者の雇用問題と公園づくりを事例に学習するようになっております。また、公民学習の中での活用については、特に設けられてはおりませんでした。

清水書院については、全4ページで取り扱っております。「対立と合意」「効率と公正」については、合唱祭での選曲を事例に学習するようになっております。公民学習の中での活用については、清水書院は特に設けられてはおりませんでした。

帝国書院は全6ページで取り扱っておりました。「対立と合意」「効率と公正」につきましては、マンションにおける住民間のトラブルを事例に学習するようになっております。また、単元の最後には、マンションの騒音問題を題材に、問題も設けられています。公民学習の中での活用につきましては、大項目における学習のまとめで1カ所活用されております。また、大項目の「私たちと政治」の中に、学習課題の一つとして1カ所活用が図られております。

日本文教出版につきましては、全8ページで取り扱っております。「対立と合意」「効率と公正」については、マンションにおける住民間のトラブル及び学校でのトラブルを事例に、学習するようになっております。また、単元の最後には、家事と育児の問題、球技大会でのグラウンド使用を題材に、練習問題も設けられていました。公民学習の中での活用につきましては、大項目における学習のまとめで2カ所、また大単元の「私たちと国際問題の諸問題」という大項目があるのですが、その中で学習課題として1カ所活用が図られていました。日本文教出版につきましては、「対立と合意」「効率と公正」についての学習課題が非常に多く設定されているところが特徴的でした。

自由社につきましては、全8ページで取り扱っております。「対立と合意」「効率と公正」については、部活動における体育館使用のトラブルを事例に、簡潔に学習するような内容になっております。大項目における学習のまとめでは、1カ所活用が図られておりました。

育鵬社は全10ページで取り扱っております。「対立と合意」「効率と公正」につきましては、父親の転勤、地域医療を支えた病院の閉院、原子力発電所の開発、給食の残飯問題。これを事例に学習するようになっておりました。また、公民学習の中での活用につきましては、大項目における学習のまとめで1カ所活用が図られております。

重点項目の4点目は社会科のまとめとして位置づけられた中項目、「よりよい社会を目指して」の内容について調査をいたしました。この中項目には、各社ともレポート作成の課題を設定して対応をしておりました。また、自由社はディベート、育鵬社はプレゼンテーションの課題も設定をしておりました。東京書籍、帝国書院、日本文教出版、育鵬社については、レポートの作成方法について非常に丁寧に示しておりました。

以上で報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

小田原委員長 資料作成委員会の報告は終わりました。公民的分野につきまして、何か御質疑はございませんか。いかがですか。

和田委員 調査の方、どうもありがとうございました。この公民的分野については、自分と政治や経済のかかわりを最終的に学んだことを、自分とのかかわりで考えていくというあたりが、内容的に非常に重要になってくると思うのです。そうすると、発展教材あたり、つまり、学んだことを具体的に自分の生活に結びつけて発展させていくというような、そういう内容のところをやはり重視していく必要があるかなというふうに思うのですが、そういう点から考えると、生徒たちの生活に結びつけて学んだことを生かして

いくような、そういう活動が取り上げられている。どこも同じように、振り返りの部分だとか発展学習があるわけですけれども、そういう点からすると、生徒が主体的にどうか自分からかわれるような、そういう活動になっている会社というのは、どういう会社になっていくのですか。

市村教科別調査部会「社会（公民的分野）」部長　委員会の中では東京書籍、それから日本文教出版、あと教育出版ですか、この辺がそういうところではよくやられているかなというふうに考えております。

小田原委員長　先ほどの歴史と同じように、言語活動が大きいかなと。特に公民の場合には、公民という教育課程上の教科、科目の呼び方で公民をやっているのですよということではなくて、公民とはそもそも何なんだということが大事だというふうに思いますよね。その視点があるから、私たちと現代社会とか、それぞれの単元に、必ず「私たち」という言葉がくっついてきているというふうに思うのです。そこがどれだけ教科書の内容として生きているかというのが一つの観点だというふうに思うのですよね。今のお話としては、その3社がそういう点ではよく表れているというふうに見ていいのでしょうかね。

市村教科別調査部会「社会（公民的分野）」部長　そうですね、言語活動の課題の出し方については、自分に置きかえて考えてみようというようなのは、さきほどの3社。また、帝国書院も比較的そういう視点では多い方だとは思いますが、そこが一番充実している出版社というふうに思っています。

小田原委員長　何かございませんか。

和田委員　もう一つ御意見というか、お聞きしたいのですけれども、やはり公民というと、なかなか中学生にとってみてもなじみがなかったり、とっつきにくい、かた苦しい内容だなみたいな、そういう印象をかなり受けるものがあると思うのですが、導入部分だとか、そういう授業に入る段階で、子どもたちの興味・関心を高めるような、そういう工夫のある出版社はどのようなところになりますか。

市村教科別調査部会「社会（公民的分野）」部長　構成のところでお話をしたところがそこに当たるかなというふうに考えております。東京書籍と日本文教出版、この二つにつきましては、大項目に入る前に、それに関する課題学習、活動が入るのですけれども、それが2ページ開きで設定をされております。最後の大項目の終わりに、学習のまとめは当然あるのですけれども、その前後に、学んだことを利用してやるという学習課題が

設定されておりますので、そういう面ではわかりやすいかなと。「何を学ぶのかな」

「何を学んだのかな」ということが、わかりやすい構成になっているというふうに委員会としては考えております。

小田原委員長 そのほか、いかがですか。

教科書によって、例えば情報社会と情報化社会と違いがあるのです。市場経済なら市場経済の「市場」のとらえ方というのも、会社によって微妙にというか、見方によっては大きく違ってくるような感じもするのですね。あるいは、わかりにくい表現だったり。中には文章が非常に稚拙だと思われるようなものもあるのですけれども、そういうところの指摘というようなことは、委員会の中ではありませんでしたか。

市村教科別調査部会「社会（公民的分野）」部長 今の2点については、特に具体的にこの社はというような話は、委員会の中では出てきませんでした。

小田原委員長 きょうの資料作成委員会のお話を伺っていると、この資料の報告書の形式があって、それに従ってやらざるを得ないというところもあるので、目次がどうだ、印刷がどうだといったような話が主になっていってしまっているのですけれども。私は、中身とか本文とか与える材料だとかというようなところの検討が大事だなと思うのですね。そういう点で先ほどのような質問を、例えばという点で挙げたわけですが、そういう話がなければ仕方がないと思いますけれども。皆さんの中で何かほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 では、特にないようでございますので、公民的分野についての資料作成委員会の報告は終わりいたします。長時間ありがとうございました。

小田原委員長 本日、予定しておりました教科・科目、これを種目と呼んでおりますけれども、質疑は、全て終了いたしましたので、ここで無記名による各委員の意見を集約したいと思います。各委員の皆さんは、用紙に御記入願います。

〔各委員用紙記入〕

小田原委員長 では、よろしゅうございますか。

それでは、事務局は記入用紙を回収していただきたいと思います。この場で封筒に入れて、封印をお願いします。

〔記入用紙回収・封印〕

小田原委員長　それでは、今封印した用紙は、8月24日まで事務局で保管願います。

教科用図書関係は以上で終わりということで、何かほかに報告することはございますか。

坂倉学校教育部長　特にございません。

小田原委員長　委員の皆さんで何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長　ありません。

それでは、以上で公開での審議は終わります。

小田原委員長　なお、ここで暫時休憩にいたしまして、休憩後は非公開となりますので傍聴の方は御退出願います。

再開は、時間をかなり超過しておりますので、休憩がちょっと短いですが、5分後に再開したいと思います。

〔午後12時30分休憩〕